「系譜二」（松下家文書一-六）

善左衛門と改め　　延享二丑五月十七日改名

菊蔵記

一、宝永二乙酉年十一月廿九日　誕生水性

一、正徳四甲午年三月、伊太夫病気重り候付末期願出ス、跡式次郎吉ニ被下置候様ニ申上ル、尤実子之旨書上ル、当午ニ次郎吉十歳、但、五十歳以上十七歳以下は急養子願不相叶、御法式ニ候故、当午ニ十八歳と書上可然旨内談済、十八歳と書上ル、同六日伊太夫死去之届人足方当番へ定小屋迄申遣ス、忌服請候様若年寄衆被仰渡候段申来ル

一、同月廿六日、忌中今日迄ニて明ケ候段、人足方当番へ申遣ス、勿論次郎吉幼年ニ候間諸事差図被致被下候様ニ申遣候処、承知、明日御支配方へ可申上旨申来ル

一、同廿七日、今日忌中明之儀御支配方へ申上候段、定て跡式被仰付候、以後小普請入可被仰付候、何レ之組へ入申度候哉、前々之例ニて明屋敷へ直ニ被仰付候儀無之候間、存寄可申遣旨人足方当番より申来候ニ付、兎角明屋敷組へ被仰付候様被申上可被下候、其迄ニて不相叶候ハヽ何レ之組へ成共被仰付次第被成可被下候旨返事遣ス

小普請組明屋敷組共ニ御留守居支配ニ候へ共、小普請ハ度々之廻状来候節、殊之外六ケ敷人障も多入申候、且小普請金も年々ニ上納有之候、明屋敷組ハ伊賀者ノ老幼之者病気等之者計ニて可勤体之者ハ御番をも相勤候、上納金も無之、廻状等も組頭より出候故是又請引致安く候間、明屋敷組入願申候

一、同日人足方仲ケ間永森喜太夫、鈴木勘兵衛方より八時分ニ手紙来り、跡式被仰付候段御書付を以被仰渡候間只今定小屋迄罷出可申候、御書付相渡可申旨、幼年ニ付親類中名代ニて差出候様、尤麻上下

着用直ニ鳥居伊賀守殿へ御礼罷越候様申来、名代ニ遠藤市郎兵衛罷越於定小屋御書付喜太夫、勘兵衛より相渡候付頂戴、但、小普請入歟明屋敷組入歟、此向へは被仰渡無之不相知

跡式被下置候迄ハ伊太夫御支配方より被仰渡、次郎吉組入之儀は其御支配方より被仰渡事也、小普請方ハ若年寄衆之御支配、小普請組明屋敷組ハ御留守居衆御支配故此節不相知

右跡式被下置候御書付之写

高弐拾俵弐斗六升弐合五勺

弐人半扶持

小普請人足方伊賀者

松下伊太夫跡

実子　次　郎　吉

右伊太夫取来御切米御扶持方実子次郎吉ニ被下之

右之御書付を以若年寄鳥居伊賀守殿被仰渡候由被申渡候

都て被仰渡之儀は其筋々之御支配方へ御老中被仰渡候て筋々之御支配方より末々え格式相応ニ被仰渡事也、御口上ニて被仰渡筋有之、御書付渡之筋有之、伊賀者ハ家督跡式或は御広敷御番被仰付節は御本丸焼火之間ノ御廊下ニて御留守居衆被申渡事也、但、御廊下中程ニて御書付を以被申渡也、此度御書付定小屋ニて被渡候事、如何ニ候へ共、是ハ若年寄衆ハ右御廊下ニて被仰渡御格式ニ無之、伊賀者焼之間え可出程之格式ニ無之候故小普請方へ御書付渡り候故定小屋ニて被相渡候

此節御勤合御老中、土屋相模守殿、秋元但馬守殿、井上河内守殿、阿部豊後守殿、久世大和守殿、但、

相模守殿ニは御用番御免ニて月番無之、三月御用番豊後守殿、四月大和守殿、若年寄衆、大久保長門守殿、鳥居伊賀守殿、水野監物殿、大久保山城守殿也、但、三月御用番伊賀守殿、四月山城守殿、勿論三月跡式願上候故伊賀守殿御懸り也

一、同廿八日明屋敷組頭より申談儀有之候間、友右衛門方へ参り候様申来、御留守居衆え下り候御書付之写

小普請人足方伊賀者
松下伊太夫跡
実子　次　郎　吉

右伊太夫跡式申渡相済候之間支配之儀例之通可被致候

右御老中より御留守居へ御渡、松平主計頭殿右御書付を以明屋敷組頭種村友右衛門へ御申渡、友右衛門宅ニて市郎兵衛同道次郎吉へ右御書付被渡候、勿論分限高書付組頭迄差出候様被申聞候、此節御勤合之御留守居衆松平主計頭殿、松前伊豆守殿、大久保淡路守殿、大島肥前守殿也、但、三月御用番淡路守殿、四月主計頭殿、四月御用番ニて被申渡

分限高書付組頭へ出控

覚

高弐拾俵弐斗六升弐合五勺　　弐人半扶持　　松　下　次　郎　吉

右は御切米御扶持方御証文願ニ入用之由ニて即日認遣ス、但、御扶持方三月分迄ハ人足方ニて伊太夫組合手形ニて請取、御証文下り候て六月分より明屋敷方ニて次郎吉組合手形ニて請取、四月五月両月

分ハ次郎吉壱人前之手形ニて請取、且夏御借米より次郎吉組合手形ニて請取、右明屋敷方ニてハ自分印形不用、惣仲ケ間組合之手形、組頭三人之印形ニて請取、御留守居裏印被致也、札指ハ人足方ニてハ山田や金右衛門、明屋敷方ニてハ大口治兵衛也

一、此時代御切米渡り方、次郎吉分限高之内

春三俵　夏八俵　冬九俵弐斗六升弐合五勺

一、組頭一種村友右衛門三中村七兵衛二青山三右衛門、三人連名之宛所ニて由緒書親類書共壱通ツヽ出ス

一、当秋珠徳眼勝居士骨仏高野山え納、成徳院使僧へ渡遣ス

一、正徳五乙未年二月熊之助持参之道具市郎兵衛方へ遣ス、委細熊之助記之所ニ記

一、同六月お市高麗喜右衛門方え婚儀済、委細お市記之所ニ記

一、青山三右衛門病死、跡役岡室善右衛門、同五月被仰付候ニ付由緒書親類書共壱通ツヽ出ス

一、正徳五乙未年熊之助儀、市郎兵衛方へ引越候、委細熊之助記之所ニ記

一、同年七月朔日改元被仰付

一、享保元丙申年九月十五日之日附ニて高野山成徳院使僧珠徳眼勝居士え茶湯牌証文到来、委細伊太夫記之所ニ記

一、享保二丁酉年七月屋敷坪数住宅等之訳書出候様ニ案紙来、依之認組頭へ出ス、委細屋敷一部書ニ記

一、同十月屋敷間口裏行并住宅且借地之者有無之訳書出候様ニ案紙来ル、依之認組頭へ出ス、委細右同断

一、同十一月十五日、次郎吉前髪執申候、当酉十三才、但、袖直シは先達ては不致此時一所致ス、熊之

助も此節次郎吉と一同ニ前髪執申候、熊之助委細右同断、次郎吉今日名伝吉と改、市郎兵衛より名を
給り平四郎を頼前髪執申候、熊之助も同断

一、享保三戊戌年八月、御留守居衆より申来候由、伊賀者共之内鉄砲所持の浪人屋敷之内ニ差置候哉否
致吟味差置不申候ハヽ此已後差置候ハヽ早々可申上旨、証文取置候様組頭へ申来、依之証文認候て
組頭へ出ス、委細屋敷一部ニ記

一、当年市郎兵衛、喜右衛門并平四郎発起ニて伝吉無尽企当十一月初会

一、享保四己亥年組頭岡室善右衛門病気跡役倉地四郎左衛門被仰付、依之由緒書親類書共ニ壱通ツヽ出
ス、六月出也

一、同年六月廿二日より竹橋御屏風蔵御番ニ出ル、今日より初番相勤申候、組合吉田半右衛門、権田伊
左衛門、矢部庄蔵、松下伝吉、当亥ニ十五才
四人組合也、尤自分弁当ニて勤也、其後組合人代り候へ共、庄蔵ハ享保十年迄一組合ニて相勤ル也、
此時分御番合拾弐三組或は拾五組之時も有之

一、同九月由緒書明屋敷伊賀之分一帳ニ認出候様御留守居大久保淡路守殿より組頭へ申来、依之認出ス
尤美濃紙ニて請帳いたし候由、是ハ御目付衆へ取集被申由ニ候、請帳ニ印形ハ無之由、此方より組頭
迄出候由緒書程村堅紙印形計有之、但、発端書、先祖書と認、都て認様例式とハ違

一、竹橋御屏風蔵御番当亥六月廿二日より十二月中迄皆勤

一、享保五庚子年四月御留守居松前伊豆守殿より申来候由、実子養子有無之訳書付出候様、尤案文来り
候ニ付認組頭七兵衛方へ出ス控

拝領屋敷鮫橋谷町開町屋住宅

高弐拾俵弐斗六升弐合五勺弐人半扶持　本国伊賀　松下伝吉

生国武蔵　子ニ二十二歳

実子養子共無御座候、以上

享保五子年四月　松下伝吉印

種村友右衛門殿

中村七兵衛殿

倉地四郎左衛殿

一、同年六月二日母病死、同七月廿二日迄忌中断、但、廿三日忌中明之届ニ友右衛門方へ参り候処、仲ヶ間之内ニ囚人有之、同日之夜番より勤ル

一、同七月十六日之夜浪人山田常右衛門被召捕、常右衛門常々近辺ニて悪事有之、其頃五人男と申異名を取其五人男ハ山田常右衛門初、伊賀者之倅四人、其外ニも此類之者有之、常右衛門自証院門前町ニて召捕町奉行所ニて穿鑿有之段々白状後ニ死罪ニ被行候、委細ハ別紙ニ有之

一、同廿二日夜常右衛門同類平山又市　明屋敷番伊賀、直右衛門惣領部屋住、常右衛門地主明屋敷番伊賀天野半九郎両人明屋敷番伊賀者へ御預ケ半九郎地守市郎兵衛と申者召捕出候様ニと申来、半九郎屋敷大久保番衆町へ喜多伴五郎、矢部庄蔵、今村十郎右衛門、野呂甚助、永井平蔵、水右衛門倅五人差遣部屋住市郎兵衛召捕町奉行大岡越前守殿へ相渡ス、又市、半九郎儀は北伊賀町伊賀之蔵屋敷役所ニ入置、仲ヶ間勤番又市父直右衛門をも仲ヶ間勤番依之竹橋之御蔵番所ハ小石川組之仲ヶ間之分勤番伝吉

蔵屋敷勤番廿三日夜、廿五日朝、廿六日昼、廿七日夜、廿八日夜、晦日夜、八月二日夜、五日夜以上八ツ勤番尤不寝之番也、七月廿六日又市、大岡越前守殿へ渡ス

一、七月廿八日仲ヶ間永井水右衛門、水右衛門病身ニ付地借り養子平蔵玉置安右衛門方ニ浪人松原孫右衛門と申者居候由、常右衛門指口ニて越前守殿より差出候様ニ申来候処、孫右衛門先達て逐電ニ付其段申達候処、地主水右衛門地借り安右衛門共ニ明屋敷伊賀仲ヶ間中へ御預ヶ仲ヶ間勤番八月二日、安右衛門越前守殿へ相渡同四日ニ安右衛門手鎖ニて地主倅平蔵并此方仲ヶ間へ御預ケ、孫右衛門儀尋可出旨御申付、依之仲ヶ間之内組頭より申付北伴五郎、矢部庄蔵、星野孫八郎、飯塚左内、石川七郎右衛門五人一日両人ツヽ安右衛門、平蔵両人を同道ニて都合四人ツヽニて尋出申候、尤勤番共也、所々尋候訳書付尋ニ出人数姓名も認、日々越前守殿へ出ス、同七日より三人増、坂田助十郎病身故倅平右衛門番代横井藤四郎、松下伝吉以上八人勤番、此三人ハ尋ニハ出不申候、後々伝吉ハ三四度尋ニも出申候、平蔵宅ニ安右衛門も昼夜差置申候、御番割左之通

八月七日　昼　孫八郎、藤四郎　　夜　庄蔵、伝吉

同八日　昼　左内、七郎右衛門　　夜　伴五郎、兵右衛門

右朝夕代り合相勤其後夜番計ニ成、庄蔵、伝吉、伴五郎、兵右衛門元之組合ニて隔番ニ泊り申候、但、不寝ハ無之、尋ニ出候者ハ伴五郎、庄蔵、孫八、左内、七郎右衛門元之通五人也、平蔵宅は南伊賀町石切横町也、伝吉勤番八月七日夜番より隔番ニ勤翌丑正月十三日夜番迄、以上七十六勤番

一、竹橋御屏風蔵御番其外之勤番共当子年中皆勤、内、外之勤番七月廿三日夜より子年中勤番七十七、外、母忌中引五十日是ハ勤ニ立申候事

一、享保六辛丑年正月廿日より天野半九郎方へ勤番、半九郎拝領屋敷ハ大久保番衆町此所へ勤ル、組合矢部庄蔵、椎名清左衛門、坂田助十郎当代倅兵右衛門、松下伝吉四人組也、廿日昼廿二日夜廿五日昼兵右衛門廿七日夜二月二日夜六日夜以上六ツ勤番、九日鮫ヶ橋谷町類焼ニ付勤番引申候

去子七月廿二日夜半九郎仲ヶ間御預ケ地守市郎兵衛召捕候て越前守殿へ渡ス、八月六日市郎兵衛越前守殿より被返市郎兵衛甥半六、仁右衛門印形ニて両人へ御預ケ、都て町奉行所へ右之者共差出候節々明屋敷仲ケ間五六人ツヽ差添申候、半九郎願ニ付拝領屋敷へ八月七日ニ引移り申候、此節仲ヶ間久野八右衛門、福水治右衛門、今村十郎右衛門、福山太左衛門差添申候、夫より大久保番衆町へ仲ヶ間勤番当正月廿日より伝吉右之場所へ勤番

一、同二月九日四ツ谷忍町日野屋と云菓子司之裏より出火、夫より左門殿町南本町幅ハ石切町迄、鮫ヶ橋谷町元鮫ヶ橋紀州屋敷際迄勿論天王宮共類焼、安楽寺観音堂西念寺与力町杯此節類不覚

当月七日鉄砲矢場坂上之同心屋敷借地之者より出火ニて仲殿町少々元鮫ヶ橋櫓下迄類焼、依之元鮫ヶ橋際ハ三日之内ニ二度類焼也

類焼休ニて三十日引三月十日より竹橋御蔵へ御番ニ出ル

一、同年九月廿日国宗之刀拵有り袋共質物ニ遣シ金弐両借り此弐両高麗喜右衛門普請金ニ用立申候、委細お市記之所ニ記ス，右質物此方地借り越後屋茂兵衛へ預ケ申候、此始終伝吉え致相談候は宮沢平四郎也，此質物後聞候ハ茂兵衛本店麹町樹木谷越後屋甚右衛門ニ預ケ置候由、享保十五戌年之所ニ記

一、竹橋御屏風蔵御番其外之勤番共当丑年中皆勤

内外之勤番正月廿日より六ツ勤ル、此外夜番之方計勤事有之，外ニ類焼休三十日定り之通引

一、享保七壬寅年拝領屋敷鮫ヶ橋谷町来卯年より公役人足銀上納被仰付故、町年寄より書付来候由、名主治右衛門方より地借り茂兵衛方迄書付之写来候付此方へ遣ス、委細屋敷一部ニ記ス

一、同年後見宮沢平四郎と不和平四郎別宅へ移ル

一、竹橋御屏風蔵御番其外之勤番共当寅年中皆勤

一、享保八癸卯年十一月名主治右衛門方より地借り茂兵衛方迄公役出銀之書付来り此方へ遣ス、委細屋敷一部ニ記

一、竹橋御屏風蔵御番其外之勤番共当卯年中皆勤

一、享保九甲辰年

一、竹橋御屏風蔵御番其外之勤番共当辰年中皆勤

一、享保十乙巳年二月十四日青山久保町より出火、権田原元鮫橋、鮫橋谷町、四ッ谷、市谷、牛込通り伝通院前、小石川、巣鴨、其末ハ田畑ニて人家無之故焼止ル、幅ハ所ニよりてハ半里計類焼長ハ青山より巣鴨田畑際、久保町より出火、甲賀町百人組不残、御蔵前組屋敷不残焼、寂光寺も焼、大番町表裏共、信濃殿町通り大番組屋敷右馬殿横町、右京殿町、左門殿町、十勝町類組屋敷、南寺町院西念寺町、新屋敷、石切町、忍町、大木戸際之町屋家数十四五間計残ル、東方ハ千日谷、永井殿屋敷、紀州屋敷下之御駕籠町、仲殿町間之馬場、大久保豊前守殿御堀端尾張屋敷、松平出羽守殿屋敷、御先手御持組屋敷不残、四ッ谷両名主近辺、大横町、箪笥町、伊賀町、新木横町、車力門前、舟板横町、菱屋横町、北寺町、光円寺横町、隆勝寺横町大木戸之永井伝九郎殿屋敷際之町屋、家数六七間残ル、夫よりまんちう谷珠宝寺焼、本村念仏坂松平摂津守殿屋敷、同下之組屋敷、七軒町、坂町、同下組屋敷、

市谷尾張屋敷不残、かゞ屋敷、薬王寺前、薬王前共同所寺町、けつけい寺、牛込肴町、袋町、御細工町、御納戸町、御簞笥町、御徒町三組共、浄留利坂火之番町、若宮、市谷柳町、此近辺組屋敷七軒寺町、惣て此幅ニて末々迄類焼、紀州屋敷之表門前之御堀端より牛込舟河原通り迄御掘端ハ一軒も不残、其外所之名不知所ハ不記、此節鮫橋近所ニて焼残ル所ハ天王之宮是ハ五年以前焼候已後、葺ニ成候故歟、別当宝蔵院居宅ハ焼ル、西念寺脇寨、信寿院共ニ焼、長閑院ハ残ル、是ハ板葺なれ共下之町通り焼行、後ハ御持組与力町通りより西念寺焼、同信寿院焼候故歟、其外凡惣場所之内残所無之

此節竹橋御蔵番之明ケ番日ニて在宿、但、此節組合、北伴五郎、矢部庄蔵、坂田助十郎、代番兵右衛門、松下菊蔵也

類焼休ニて三十日引、此節拝領屋敷御用地上り候処奉願其儘住居す、委細屋敷一部ニ記

五ヶ年之内両度類焼ニ付、拝借金被仰付、委細拝借一部ニ記、夏御借米取越被下置候

一、同年三月廿八日組頭より、廻状左之通

竹姫君様御殿御囲之内、塀御修復御座候付今晩より夜番被仰付候、則御番割相廻シ申候、以上

種村友右衛門
中村七兵衛
倉地四郎左衛門

三月廿八日

御番割

石川七郎右衛門殿
飯塚伴右衛門殿

粕屋作右衛門殿

大塚次郎左衛門殿　番代倅文右衛門

矢部庄蔵殿

松下菊蔵殿

北伴五郎殿

坂田助十郎殿　番代倅兵右衛門

永田嘉右衛門殿

後藤七郎右衛門殿

村山浅右衛門殿

新見甚左衛門殿

福永治右衛門殿

正木伴助殿

右四月朔日夜より、六月十二日夜迄勤御番数、同十九日夜番之処、山里御番所被仰付候故、此夜番ニ不出、此夜番暮六時より、明ヶ六日迄尤不寝

一、同五月廿五日昼八時分御用番御留守居衆より、組頭四郎左衛門方へ左之通申来

御庭向伊賀者相応之者、懸吟味可書出と之御書付出候間、明屋敷伊賀者之内、御吟味候て十四五人今明日中ニ可被書出候、明日朝より、八ツ時迄之内御城部屋迄同道候様ニと伊豆守被申候、以上

松前伊豆守内

五月廿五日

種村友右衛門様

中村七兵衛様

倉地四郎左衛門様

同廿六日御留守居部屋へ、四郎左衛門同道、北伴五郎、矢部庄蔵、杉浦助之丞、小高源次郎、村山浅右衛門、小泉藤五郎、山口治介、松下菊蔵以上八人、松前伊豆守殿、酒井隠岐守殿、大久保下野守殿三人御列座、右姓名之通銘々ニ吟味有之、尤由緒書銘々出ス、四郎左衛門伊豆守殿用人へ渡ス、伊豆守殿被仰候此分ニてハ不足ニ候、致吟味明早朝可致旨被仰聞候、四郎左衛門御請仕ル、由緒書控ハ前々之通也、但、程村紙半切ニ認

同廿七日出候者永田嘉右衛門、横井藤四郎、後藤七郎右衛門、椎名清左衛門、鈴木清七以上五人也

一、同六月十八日八ツ時分御用番酒井隠岐守殿より組頭両人可罷出旨申来、中村七兵衛・倉地四郎左衛門御留守居部屋迄参り候処、御書付御渡左之通　但、奉書半切

御広敷伊賀者より

村垣吉平

古坂与吉

明楽嘉太夫

西村庄太夫

倉知久太郎

明広敷伊賀者より

小泉藤五郎
横井藤四郎
杉浦助之丞
矢部庄蔵
永田嘉右衛門
後藤七郎右衛門
松下菊蔵

右山里御番所可相勤候、御門常は〆切ニ仕、御用之節明ケ立可仕候、常々御庭之内御番所より見廻り可申候、四人勤三番ニ相勤候様ニ可被申渡候

但、右之者只今迄之通御本丸御留守居支配ニいたし御用之節は中島備前守、藪主計頭差引仕筈ニ候

一、後藤七郎右衛門、松下菊蔵は勤候内三拾俵之高ニ被成下、御扶持方は有来通

右之御書付御渡被成、明十九日大納言様西丸へ御移徙被遊候ニ付、山里御門只今迄ハ御先手相勤候処御側近成候間、与力同心等難差置候ニ付、伊賀者ニ被仰付候山里御番所、明十九日請取候て、直ニ御番可相勤候、急成儀ニ候間、明日明ケ六時年倍之者両人罷出請取可申候、尤紀州附之伊賀者両人罷出請取筈ニ候、立合請取可申候、右之趣七人之者共如例式焼火之間御廊下へ被召出可被仰渡候へ共、今日御取込故其方ニて可申渡旨七兵衛、四郎左衛門へ被仰聞、右御書付并隠岐守殿之御口上、十八日暮六ツ時迄ニ七兵衛宅ニて申聞候

一、同十九日明ケ六時矢部庄蔵、永田嘉右衛門、紀州附伊賀村垣吉平、古坂与吉外ニ倉地久太郎、但、山里御番所迄案内ニ御広敷添番加藤治右衛門被参候、御先手戸川五左衛門殿組与力笹山新之丞、佐藤十郎兵衛、芥川孝左衛門同心四五人御番所ニ罷在諸事右四人え引渡申候、諸道具并帳面等御番所ニ有之候、諸判鑑も有之候へ共、当伊賀番所ニ成候て御用ニ無之其以後、御本丸御目付衆へ相渡申候、其段御留守衆且中島備前守殿、藪主計頭殿へ書付を以申達候、委細御番所ニ書付有之、右帳面と一所ニ有之書付之内、此方拾弐人御門改之写も有之、左之通

山里御門番人

村垣吉平
古坂与吉
明楽嘉太夫
西村庄太夫
倉地久太郎
小泉藤五郎
横井藤四郎
杉浦助之丞
矢部庄蔵
永田嘉右衛門
後藤七郎右衛門

右拾弐人之者大手御門より山里迄十九日廿日両日自分断次第出入

松下菊蔵

御小人目付　栗原清九郎

戸川五左衛門組

六月十八日

右大手御門と有之は、西丸大手之事也、此断書ハ御目付衆より御小人目付栗原清九郎為持大手并中仕切御番所、吹上出人番所山里迄通路ニ候間、右大手中仕切吹上御番所ニ写留させ山里御番所え本紙相渡し置候、都て何レ之御門断も如此也

右御門断御留守居衆より御目付衆へ御断、御目付衆より向々御門へ御断有之事也

一、同日組頭倉地四郎左衛門同道ニて小泉藤五郎、横井藤四郎、後藤七郎右衛門、杉浦助之丞、・松下菊蔵四ツ時前御留守居部屋迄罷出、御広敷番之頭石崎甚助殿同道ニて明楽加太夫、西村庄太夫御留守居部屋へ罷出、右七人え松前伊豆守殿、酒井隠岐守殿、大久保下野守殿、仙石丹波守殿四人共御列座ニて隠岐守殿被申渡候、山里御番所被仰付候、直ニ今日より御番所相勤可申候、未誓詞相済不申候へ共急成事故相勤可申候、尤御門断も相済候由被仰聞候、右相済直ニ山里へ罷越山里迄案内御広敷伊賀斎藤吉太夫罷越候、是ハ先年五之丸様西丸ニ被成御座候節、伊賀並之者相勤山里勤番いたし候ニ付、甚助殿差図ニて山里迄罷越候、御本丸中之御門通り同大手内桜田御門西丸大手御門中仕切御門吹上出人番所通り山里へ罷越候、此節隠岐守殿用人藤森丈右衛門也

今日仲ケ間申合直ニ御番割いたし候、左之通り

十九日

明楽加太夫　西村庄太夫　小泉藤五郎　杉浦助之丞

廿日

村垣吉平　倉地文左衛門　矢部庄蔵　後藤七郎右衛門

廿一日

古坂与吉　永田加右衛門　横井藤四郎　松下菊蔵

右之通ニて相勤引込有之節ハ繰上ケニいたし一昼夜四人ツヽニて相勤、尤御留守居衆へ御番割書付差出候、備前守殿、主計頭殿へも折々書付差出ス

一、右拾弐人御留守居支配尤直支配ニて月番持也、御扶持方裏判ハ御月番壱判御切米ハ四判也、分限帳宗門証文御切米裏判之取集御年番也、被仰付候節御月番隠岐守殿故万願并請取物等迄も後々迄隠岐守殿へ申上候、御裏判被成之訳巳八月廿四日御年番下野守殿宅ニて用人竹内庄左衛門、菊蔵へ申聞候

一、同廿一日初番ニ出ル、但、御門断十九日廿日迄相済、廿一日ニは未定断相済不申候へ共、山里当番と断申候て通り申候

一、朝夕夜食等支度之儀十九日御取込故御断行届兼候哉、廻り不申十九日ハ自分支度ニて相勤、同日夜九時分御断済候由ニて夜食御番所へ廻り申候、椀方一人持人新組弐人御小人目付差添候、自是朝夕夜食共日々ニ相廻り申候、但、御小人目付ハ夜中御門断之儀ニ付罷越候故其後ハ附不申候

一、御門定断願置候処、同廿二日御断済候由御書付請取写

山里御門番人

御留守居支配

伊賀者拾弐人

右御番所相勤候付西丸大手中仕切吹上出人番所昼之内定断火事地震之節は不限、昼夜自分断次第罷通候様御断

一、右之者西丸御玄関前より同御裏御門通り坂下御門蓮池中之御門御玄関前御長屋御門右之御門々不限昼夜自分断次第罷通候様ニ御断

以上

御留守居

六月廿二日

右之通隠岐守殿御目付衆へ被出御目付衆より御門々へ断有之候

一、同廿四日隠岐守殿より左之通

今度山里御番被仰付候、拾弐人之衆誓詞被致筈ニ候間、明廿五日明後廿六日四時御城御留守居部屋迄被申合可被罷出旨隠岐守申候、尤誓詞此方ニて認置候、以上

酒井隠岐守内

渡辺弐右衛門

六月廿四日

拾弐人連名

廿五日吉平、与吉、文左衛門、庄蔵、加右衛門、七郎右衛門、藤四郎、菊蔵以上八人済、此節隠岐守殿用人藤森丈右衛門取合申候、誓詞文言ハ御広敷伊賀誓詞と同文言、宛所ハ御留守居衆四人也

廿六日ニ加太夫、庄太夫、藤五郎、助之丞以上四人済

一、同廿七日仲ヶ間御切米御扶持方銘々手形を以請取度旨、隠岐守殿迄願書差出書替所へ与吉、菊蔵罷

越致対談候処、手形数多成候事、役所ニて不致儀候由役人申聞候

一、同廿八日中島備前守殿へ左之通認差出ス、取次奥坊主長閑

紀州者

御博扶桑勉申候

村垣吉平
古坂与吉
明楽加太夫
西村庄太夫
倉地文左衛門

江戸者

明屋敷御番相勤申候

矢部庄蔵
永田加右衛右門
松下菊蔵
横井藤四郎
小泉藤五郎
杉浦助之丞
後藤七郎右衛門

巳六月

一、同七月十二日拾弐人判鑑壱紙ニ認、四通御留守居衆へ出ス

一、同八月八日藪主計頭殿より手紙ニて申来候、各仲ヶ間衆矢来御門紅葉山下御門出入之儀、先頃御申聞候通相済候間、左様ニ御心へ可有候、以上

八月八日　　藪主計頭

古坂与吉殿

加（明ヵ）楽加太夫殿

右去ル六月より御留守居衆へ願候へ共、御門々定断御目付衆へ御出シ候以後故、別て被仰達候処、右両御門ハ御番一通りニてハ通路成不申候由、御目付衆御申叶不申候、依之主計頭殿へ申達候処御承知拾弐人姓名書付出候様ニ御申、則認差出候、但、主計頭殿御目付衆へ御申被成候ハ山里御番之者急御用等ニて何レ之御門よりも出入致候ハハ御用弁不申候間、昼夜共ニ自分断ニて通用致候様御申立候故相済申候

一、同廿日御扶持方手形等一紙ニ認請取候様隠岐守殿より申来候ニ付、書替所へ札指を以案文取則認廿四日七郎右衛門、菊蔵御足米手形共三通御年番下野守殿へ出ス、用人竹内庄左衛門へ菊蔵渡、御裏印相済、但、御扶持方手形御裏印ハ御月番丹波守殿被成候、用人森重十内より七郎右衛門請取来ル、右三通札指平八郎方へ遣、手形文言ハ当用書控一部ニ記

一、御切米御扶持方共ニ自是山里組合ニて取御扶持方ハ巳七月分迄ハ明屋敷組合ニて取御切米ハ巳夏御借米迄ハ明屋敷組合ニて取

一、此時代御切米渡り方菊蔵分限高

御足米共

高三拾俵之内

春七俵　夏七俵　冬拾六俵

札指ハ明屋敷方ニてハ大口治兵衛、山里組ニてハ笠倉平八郎也

一、同十月十九日、拾弐人由緒書親類書御月番隠岐守殿へ出ス、用人稲井庄太夫へ渡り、当用書控一部ニ記

一、同廿日、分限書并宗門証文下野守殿へ出ス、当用書控一部ニ記

一、竹橋御蔵山里御番共、巳年中御番皆勤内、竹橋御屏風蔵御番其外勤番皆勤

六月廿一日より十二月晦日迄山里御番六十六皆勤

一、享保十一丙午年三月晦日大久保下野守殿申来、今度西丸分限帳御本丸之通り新規ニ相調可申旨安藤対馬守殿被仰渡候由、大目付彦坂壱岐守殿より申来候由、向後御本丸之通り西丸へも入候旨、則認下野守殿迄出ス、委細当用書控ニ記

一、同四月四日拝領屋敷何年以前被下候訳書付出候様、名主治右衛門方より申来ル、委細屋敷一部ニ記

一、同日仙石丹波守殿より出雲大社勧化之儀申来御書付ハ御触書控ニ記

同十五日仲ヶ間拾弐人分白銀四匁八分勧化帳ニ添、丹波守殿用人須藤仁左衛門へ助之丞渡ス、五月十四日右白銀請取候段、社家中より書付来り候付、丹波守殿用人井上幸右衛門より庄太夫へ渡ス、右書付御番所ニ有之

一、同月十一日愛宕下より出火九ツ時分より八時分迄焼ル、欠付庄蔵、七郎右衛門、加右衛門、同夜五時分より市谷より出火、夜九時分迄焼ル、欠付文左衛門、与吉、今日当番加太夫、庄太夫、藤四郎、・菊蔵

但、欠付之儀藪主計頭殿被仰渡候故也

一、同十月三日御年番仙石丹波守殿へ宗門証文出ス、同七日分限帳改出ス

一、同十一月七日去巳年類焼、拝借上納聞合御金奉行案紙加筆済同十八日上納済、委細拝借上納一部ニ

記

一、同十一月廿一日藪主計頭殿御番所前へ御出、自今以後、大納言様御馬屋へ御成之節ハ当番之内より壱人冠木御門之外石垣之上へ登り、御玄関前番人中切仕番人右両所へ扇子之手を出し可申候、右両所番人へ右之儀得と申合候様可仕候旨、諸事御差図有之、此節表より御徒目付宮田十太夫罷越候故、十太夫へも御申渡、伊賀者致同道右両番人へ申合致させ可申旨御申渡、則此方より庄太夫、十太夫と同道両番所へ対談済、御玄関前当番御書院番頭曽我周訪守殿組与力小寺伝次郎、中仕切当番御持頭神尾左兵衛殿組与力相沢忠二郎と申談候、尤右御成之節ハ右番所へ御側衆より御知せ有之事ニ候へハ、右両番人出向、扇之手を見合扇子を致申筈ニ候、右扇子之手出し所ハ冠木御門外石垣通り、御馬屋之角石垣之上ニて上ヶ可申候、尤絵図御番所ニ有之候

公方様吹上御庭へ御成之節ハ、石垣之上へ登り候儀如何可仕哉と伺候処、其節ハ新御門外へ罷出、扇子之手ニて成共口上ニて成共、其時々御小納戸衆へ承合差図次第可仕旨御申被成候、右之趣ニ付仲ヶ間申合候て御馬屋へ御成之節、壱人ハ右石垣之扇子之場所へ壱人ハ山里御門外冠木御門内之明キ番所前ニ遠見仕、還御之注進脇木御門へ通し申筈ニ申合候

冠木御門際通り御馬屋前迄並木松下枝透候故、御玄関前二重橋之上人留ニ付此儀初り申候、新御門ハ吹上御門御先手番所持出人番所へ申候、則新御門之事也、此御門右御成之節ハ〆切り番人吹上番所へ引払吹上御門と新御門と之間ニ有之御門も〆切申候、御馬方当番之乗役御召馬御附之者計新御門内ニ

平伏、是ハ御馬御用ニ付残し置、其外ハ新御門外御馬屋下部屋引払申候、右〻切之内御成之節ハ奥向之衆并此方仲ヶ間計ニて表向之者共ハ不差置

一、同日、御成有之

一、翌廿二日、御成有之

一、今日中島備前守殿御申渡候は、公方様吹上御庭へ御成之節、大納言様御馬屋へ御成被遊候へハ、石垣之上扇子之手難成ニ付、新御門外え出候て扇子之手合候様御申渡、則御玄関前当番御書院番頭組与力小林彦右衛門、中仕切当番御持頭松平権之助殿組与力長尾平八

一、同十二月二日　御成有之

一、同十二月五日　御成有之

一、同十二月二日松前伊豆守殿願之通御役御免之旨、翌三日仙石丹波守殿より申来ル

一、同　村垣吉平、古坂与吉拾五俵宛御足米被下五拾俵高ニ被仰付、御休息御庭〻戸番と申役名被仰付、勤方ハ只今迄之通、山里御番所へ相勤、諸事御用も只今迄之通、依之伊賀仲ヶ間は拾人ニ成、右両人共只今迄之通三番繰上り勤ニ拾弐人引無之時ハ四人ツヽ三番也

但、紀州より御供仕候御薬込役之者御家人ニ成、御広敷伊賀者ニ被仰付拾六人、村垣吉平、古坂与吉、馬場滝右衛門、梶野太左衛門、吉川安之右衛門、高橋与右衛門、藪田定八、野尾久太夫、明楽樫右衛門、西村庄左衛門、川村弥五左衛門、中村万五郎、林惣七郎、倉地文左衛門、和田孫太郎、宮地六右衛門也、此内病死之者有之、残り候分吉平、与吉、滝右衛門、太左衛門、安之右衛門、与右衛門、定八、久太夫七人、此度御足米被下進物取次上番格ニ被仰付、五人は御本丸吉平、与吉ハ西丸、何レも

勤ハ只今迄之通り也、尤御隠秘御用も相勤申候

一、山里御番午年中御番皆勤、正月三日より十二月晦日迄御番数百弐拾五

一、享保十二丁未年正月廿六日酒井隠岐守殿より申来候は新規屋敷願或未被下候哉、早々書付出候様申来、委細ニ屋敷有之者新規願不仕、無屋敷之者其訳ヲ認同廿九日隠岐守殿へ出ス也、委細屋敷一部ニ記

一、同月拝領屋敷被下候節被仰渡誰申渡候哉、何年以前ニ候哉、書付出候様名主治右衛門方より地守茂兵衛方迄申来、則書付遣ス、委細屋敷一部ニ記

一、同晦日本所より出火八ツ時也、欠付与吉、庄蔵今日当番、加太夫、藤五郎、七郎右衛門・菊蔵

一、同正月十一日松前伊豆守殿跡御留守居岡野備中守殿被仰付旨、酒井隠岐守殿より申来

一、同閏正月十六日松前伊豆守殿跡御留守居岡野備中守殿へ御城御留守居部屋ニて吉平、文左衛門、七郎右衛門、藤五郎、菊蔵其後日ニ六人懸御目候、藤四郎ハ此節病気引込罷在候故不及其儀候

一、同月廿八日酒井隠岐守殿より申来候は、当御代町屋敷拝領之者有之候ハヽ何年以前誰殿被仰渡候哉、書付出候様申来り則書付出ス、委細屋敷一部ニ記

一、同三月四日兼て願置候通、人参判鑑人参座差遣置候間、請取候様隠岐守殿より申来、委細当用書控ニ記

（欄外）

一、五月廿九日岡野備中守殿病死之旨、翌晦日大久保下野守殿より申来

一、同六月廿三日右跡役溝口摂津守殿被仰付旨、仙石丹波守殿より申来ル

一、同五月八日、大久保下野守殿より申来候、御本丸西丸分限改有之、帳面弐冊被差越同十二日所々直し下野守殿迄出ス、委細当用書控ニ記

一、来申年日光御社参可被遊旨御書付出、台命并御触書ニ記、恐悦御留守居衆え承合七月廿一日麻上下着用酒井隠岐守殿、大久保下野守殿、仙石丹波守殿、溝口摂津守殿へ廻ル

一、同九月廿三日御年番隠岐守殿より申来候、分限帳認出候様ニと申来、同廿日認出ス

一、同月廿八日御年番隠岐守殿より申来候ニ付、宗門証文〆戸番弐人壱通伊賀拾人壱通出ス

一、同十一月当未暮上納十八日ニ納委細

一、山里御番未年中御番皆勤、正月三日より閏正月共十二月廿九日迄御番数百卅五、同三ツ忌中引

一、享保十三戊申年正月十二日、仙石丹波守殿より申来候ニ付御本丸分限帳改出ス、委細

一、同二月三日丹波守殿より申来候付、西丸分限帳改出ス、委細右同断

一、同廿六日御月番酒井隠岐守殿より申来、疱瘡之薬頂戴仕度面々ハ別紙之通心得候様申来候、委細台命并御触書ニ記

一、同三月朔日隠岐守殿より申来候、大納言様御疱瘡被遊候ニ付、惣出仕有之候、依之為恐悦隠岐守殿宅迄可参旨申来候故、隠岐守殿宅迄恐悦ニ参上、勿論麻上下着用

但、溝口摂津守殿御病気御引込故三月も月番隠岐守殿御勤也

一、同三月十日遠藤市郎兵衛病死、同月廿九日迄忌中断

一、同三月十一日御月番隠岐守殿より申来、大納言様御酒湯被為召候ニ付、惣出仕有之、依之隠岐守殿宅迄為恐悦可参旨申来候、但、此節忌中ニて引込参上不仕

一、同六月六日印形改候付左之通認、御留守居衆四人へ壱通ツヽ并判鑑四枚添御月番隠岐守殿へ出ス

覚

山里勤御休息御庭〆戸番

右同断　伊賀　古坂与吉

松下菊蔵

小泉藤五郎

右三人今度印形改申候、以上

申六月六日

右隠岐守殿用人稲井庄太夫へ不残渡ス

菊蔵印形丸之内ニ古文字裏印角切長角之内ニは不字外覆角二重ニて蓋有り、但、表印名乗至純裏印反字諄、赤坂田町印判師川村九兵衛へ申付ル、藤五郎も同人へ申付ル、出来形ハ違也

一、同八月御月番下野守殿より申来、同月廿日ニ御本丸分限帳改、同廿七日ニ西丸分限帳改、両方共相違無之旨書付出ス

一、同十月三日御番改書付御年番下野守殿へ出ス、巳六月より当申九月中迄皆勤之分、村垣吉平、倉地文左衛門、矢部庄蔵、松下菊蔵、杉浦助之丞、小泉藤五郎六人、其外煩并看病断有之旨認、下野守殿用人石橋条介へ加太夫渡ス、是ハ年々皆勤之者御留守居衆へ申達置可申旨申合書出候

一、同月十七日分限帳一冊認、且宗門証文御年番下野守殿へ出ス

一、同十一月当申暮上納十八日納委細

一、山里御番申年中御番皆勤正月三日より十二月廿七日迄、御番数百弐拾五、内七ツ忌中引

一、享保十四年己酉年二月五日御月番諏訪若狭守殿より申来、御本丸分限帳改同七日出ス
一、同三月九日御月番酒井隠岐守殿より申来、西丸分限帳改出ス、委細
一、同五月廿四日仙石丹波守殿より申来、御目付中へ出候間、由緒書拾弐人分認近日出候様申来認出ス
一、同八月九日下野守殿より申来、御本丸分限帳改出ス
一、同九月九日丹波守殿より申来、西丸分限帳改出ス
一、同月十日より御休息御修復場へ御庭御用懸り之分、吉平、与吉、加太夫、庄太夫、文左衛門相勤
一、同十三日より山里御庭囲瓦塀御修復場見廻り、庄蔵、加右衛門、七郎右衛門、藤五郎、助之丞、藤四郎、菊蔵相勤、尤山里当番より急見廻り相勤候
一、同十月四日宗門証文例之通弐通、丹波守殿へ出ス
一、同月廿九日諸拝借当酉年上納之分御差延被仰出御書付隠岐守殿より来ル、委細拝借上納一部ニ記
一、同十二月七日藪主計頭殿へ差出候左之通、酉九月十日より御休息御普請所相勤罷在候

下ケ札ニ九月十日より十二月七日迄

日数百十六日

村垣吉平
古坂与吉
明楽加太夫
西村庄太夫
倉地文左衛門

十二月七日

酉九月十三日より十二月六日迄山里御庭瓦塀御普請場所見廻り相勤申候

山里伊賀

矢部庄蔵
永田加右衛門
後藤七郎右衛門
小泉藤五郎
杉浦助之丞
横井藤四郎
松下菊蔵

下ケ札ニ

九月十三日より十二月六日迄

日数百十二日

十二月七日

一、同廿七日右七人之者明日陰時計之間へ罷出候様ニ主計頭殿より申来候

一、同廿八日右七人、陰時計之間へ罷出、尤右五人之者も罷出候、勿論今日当番之四人は相詰候不及旨御申被成候故、四人ハ不相詰七郎右衛門ハ此節忌中ニて引込罷在候段申上置候、御内証向之事故裏付上下ニて出ル、御普請中骨折候付、御金被下旨主計頭殿御申渡金三百疋ツヽ陰時計之間奥新部屋ニて頂戴、右御礼廻り御側衆大久保伊勢守殿、松平内匠頭殿、并藪主計頭殿、奥之番鈴木丈右衛門殿へ参上、但、御用懸り五人も御褒美頂戴仕候

一、山里御番、酉年中御番皆勤正月朔日より閏九月共十二月廿八日迄御番数百卅四、内弐ツ忌中引

一、享保十五庚戌年三月十一日十年以前丑年高麗喜右衛門え用立申候金子之質物、国宗之刀之儀、喜右衛門方、年々困窮ニて返金難成ニ付、此方より請出し可申積りニ付、茂兵衛本店甚右衛門へ談候処、

得と挨拶無之候付、段々僉儀いたし元利之書付今日取候処、本金三両之由弐両ハ此方へ請取壱両之訳不知、元利存之外高金ニ成候故、此刀請不申候、尤伊太夫譲候腰物、是而已ニも不限候付、請不申候、本金之内壱両ハ丑年茂兵衛へ預ケ候節、甚右衛門より三両之高ニ置、右壱両茂兵衛自分用ニいたし候と相見へ申候付、彼是難渋いたし候ても如何に候間、此の刀請不申候

一、同七月十八日例年之通諸願改有之付、御年番諏訪若狭守殿より申来、諸願申上不置段、山里勤拾弐人共書付出ス

一、同二月四日御月番下野守殿より申来分限帳改出ス

一、同七月廿一日御月番丹波守殿より申来分限帳改出ス

一、　御月番下野守殿より申来分限帳改出ス

一、　御月番越前守殿より申来分限帳改出ス

一、同九月廿ニ日御年番若狭守殿より申来宗門証文例之通弐通出ス

一、同十一月当戌暮上納十八日納、委細拝借上納帳ニ記

一、同十二月十六日五百石以下一統拝借金被仰出候付、仙石丹波守殿御書付、吉平ニ御渡、拝借金同廿九日請取、委細右同断

一、山里御番、戌年中御番皆勤正月二日より十二月廿八日迄御番数百廿八

一、享保十六辛亥年正月十二日下谷池端かや町より出火ニ付、欠付加右衛門、庄蔵、菊蔵、吉平、与吉、今日当番、庄太夫、藤五郎、藤四郎、文左衛門

一、同二月三日諏訪若狭守殿より申来分限帳一冊新認出ス

一、同月九日御月番下野守殿より申来御本丸分限帳改出ス
一、同三月廿七日御月番松平阿波守殿より申来西丸分限帳改出ス
一、同六月三日大久保下野守殿え仲ケ間御役出仕候様願書出ス
去ル巳年以来当亥年迄七年仲ケ間之内紀州者之儀ハ格別、江戸者七人共御役替いたし候者無之付、山里勤拾弐人申合、六月三日下野守殿用人石橋条助を以願書出ス
一、同七日上納等之手形案文元方御金奉行衆へ例年聞合之儀、当六月中より聞合候様ニ御勘定奉行衆より申来候由、下野守殿より申来り候、委細拝借上納帳ニ記
一、同二月廿八日御番改書付御月番下野守殿へ出ス、巳六月より去戌年迄六年皆勤之分、村垣吉平、松下菊蔵両人、其外ハ煩并ニ看病断有之旨委細ニ認、尤拾弐人共一紙ニ改下野守殿用人城戸定八へ菊蔵渡ス
一、同七月二日例年之通諸願改有之、御年番内藤越前守殿より申来諸願申上不置段、山里勤拾弐人書付出ス
一、同八月廿九日御月番越前守殿より申来御本丸分限帳改出ス
一、同九月七日御月番阿波守殿より申来西丸分限帳改出ス
一、同廿日永田加右衛門病気ニて御番引罷在候処、差重り候ニ付、今日末期願御月番松平阿波守殿へ菊蔵持参、尤此願ハ阿波守殿宅へ致持参候、用人坂野左市郎申聞候ハ御譜代ニて地方も有之、殊更実子跡式願候事故、末期願ニ不及候、若病死仕候ハヽ存生之内願候段死去之届と一所ニ差出可申旨被申聞候、尤阿波守殿へも達置可申旨申候、同廿一日病死ニ付、届并願書由緒書共ニ出ス、十一月十一日迄

ニて十二日忌明、倅市十郎幼年ニ付嘉右衛門弟前野雲八郎より菊蔵方迄申越候間、阿波守殿へ申達候

一、同廿六日越前守殿より申来晦日ニ宗門証文弐通、明細書拾弐人短冊帳面ニ張候て出ス

一、同十月二日御入人願御月番下野守殿へ出ス、永田加右衛門御跡願

一、同十月四日御年番越前守殿へ分限帳一冊新、菊蔵、藪主計頭殿へ陰時計之間ニて吉平、加太夫へ被仰渡候、御守殿之御普請ニ懸り候五人之者、御普請場ニ泊り番被仰付候、昼両人夜三人相勤、尤山里御番は引可申候、山里御番は残り五人ニて三番ニ相勤、人不足之分ハ御本丸御広敷伊賀一日三人ツヽ助番之儀、松平能登守殿へ申上、御留守居衆へ被仰遣筈ニ候間、本番人差添相勤可申候、勿論本番人壱人之組合之所ハ五人之内ニても致吟味差添置可申旨、大久保伊勢守殿被仰候段御申聞被成候、但、今日は余り差懸り候間、明九日より助番取可申候、助番之者、新御門出入之御断も御目付衆へ奥之番衆より直談有之事ニ候由、是又被仰聞候

当十二月西丸ニて御婚姻有之ニ付、只今迄大奥ニ被遊御座候

一位様二丸へ御移被遊其御跡御住居替并長局等御修復有之ニ付、吉平、与吉、加太夫、庄太夫、文左衛門五人、右御普請御修復等之場へ御用被仰付相勤候処、今日右之通り泊り番共ニ被仰付候、残七人之内、嘉右衛門病死、藤四郎病気引残五人ニて相勤申候処、今日右之通り被仰付候

一、同九日御留守居松平阿波守殿より左之通申来ル

御本丸御広敷より伊賀衆差加、其御番所昼夜勤番之儀、松平能登守様より西丸御目付様え被仰渡候間、各御申合御勤可被成候、此段申進候様ニ阿波守申付候、以上

十月九日　　松平　阿波守内

尾崎浅右衛門

山里御番所

右手紙御小人目付鈴木藤七持参いたし候、阿波守殿昨八日泊り番、今朝山里御番所迄被遣候

一、御番割奥之番、寺島又四郎殿上ル、菊蔵持参、陰時計之間ニて藪主計頭殿ニも御逢被成、勤番大切ニ可相勤旨被仰聞候、御留守居大久保下野守殿へも上ル、御留守居部屋へ是又菊蔵持参

九日　杉浦助之丞　小泉藤五郎
矢部庄蔵　十日　後藤七郎右衛門
右之者共御広敷伊賀助番三人ニ差添三番ニ相勤申候、以上
十一日　松下菊蔵

十月九日

一、御本丸より伊賀助番之儀、一組より三人ツヽ、都合九人左之通り

一番組　大内又右衛門　弓気田孫助
広沢為右衛門　高橋浅右衛門

二番組　大塚善次郎　湊太次左衛門
大塚丈右衛門　遠藤直右衛門

三番組
平岩与左衛門

但、勤方腕木御門より内山里御庭之分ハ本番人計御用之節相勤候、

右之趣主計頭殿菊蔵へ御申渡被成候

一、同十日、藤五郎病気ニて引候ニ付、今日菊蔵壱人勤ニ相勤候、尤孫助、善次郎、丈右衛門相勤候、

但、七郎右衛門明十一日当番ニ成ル

一、同十一日当番助之丞、七郎右衛門助番、太次左衛門、与左衛門、直右衛門是より御番割左之通

杉浦助之丞　矢部庄蔵　松下菊蔵

後藤七郎右衛門　大内又右衛門　弓気田孫助

十一日　湊太次左衛門　十二日　平沢為右衛門　十三日　大塚善次郎

平岩与左衛門　高橋浅右衛門代り　大塚丈右衛門

遠藤直右衛門　高橋助七郎

右助番之者九日より勤番、九人之名前藪主計頭殿へ与吉上ル

一、同日去戌年五百石以下拝借金当暮より上納ニ付、内藤越前守殿より申来ル、委細拝借上納帳ニ記

一、同廿日小泉藤五郎病気ニ付、願之通明屋敷組入被仰付候

一、同十一月当亥暮上納、十八日納、但、類焼拝借也、委細右同断ニ記

一、同十五日大久保下野守殿へ菊蔵由緒書出ス

西丸御婚姻ニ付、御人被為附候ニ付、吉平・与吉吹挙ニて右御婚礼御用懸り諏訪若狭守殿へ御役出願候処、当月御用番下野守殿へ出候様ニ御申被成候故、下野守殿へ出ス

一、同十二月十六日左之通申来ル

猶以今日呼出し不申聞候へ共、御取込ニ候間、如此申遣候、以上

明屋敷番伊賀者、北川甚助事西丸山里伊賀者壱人之明キへ被仰付候、今日申渡候間、可被得其意候、尤明屋敷伊賀組頭より可申達候山里番人へも被申達、諸事申合候様可被致候、以上

内藤越前守

十二月十六日

村垣吉平殿

古坂与吉殿

右は、御本丸焼火之間御廊下へ明屋敷組頭久野久三郎、甚助致同道、越前守殿被申渡候
惣て、伊賀者は三拾俵弐人扶持之高ニ先年並高被仰出候節相極り候故、弐拾六俵三人扶持之者ハ勤候
内三拾俵高ニ成、御扶持弐人扶持ニ成候処、去ル巳年七郎右衛門、菊蔵ハ御足高共ニ三拾俵御扶持ハ
持来候通被下候、外ニ此類壱人も無之故、山里伊賀計ニ際り御扶持方持来候処、此度甚助被仰付候節、
御足高不被下持高持扶持之儘ニて御足高之訳被仰渡無之候

一、山里勤拾弐人、去ル巳年被仰付候以来、初て明跡御入人被仰付候処、御足高之儀被仰渡無之故、左
之通書付越前守殿へ出ス

本高弐拾六俵三人扶持　後藤七郎右衛門
外ニ四俵御足高
都合三拾俵高

本高弐拾六俵
外ニ九俵八升七合五勺御足高　松下菊蔵
都合三拾俵高

右両人享保十巳年六月十九日酒井隠岐守殿被仰渡候、以上

十二月

高弐拾六俵三人扶持　　北川甚助

右之者此度持高ニて私共同役ニ被仰付候処、先格之通御足高被下置候様ニ奉願上候、以上

十二月　　山里勤　拾壱人

右越前守殿宅へ菊蔵持参、用人平井小藤太へ渡ス、翌日伺ニ参り候処、当年ハ押詰候間、明春ニ至御取計可被成由、越前守殿御申被成旨、用人能村郡八申聞候

山里御番

一、亥年中御番皆勤正月朔日より十二月廿七日迄御番数百卅四

一、享保十七壬子年二月十日分限帳改下野守殿へ出ス

一、同十九日、例年之通風急之節火之廻り御書付下野守殿より来ル

一、同廿三日去暮甚助御足高之儀越前守殿迄願候処、未相済不申候、御借米時分ニも成候ニ付伺候処、御証文願出置候様御申被成候間、左之通認用人郡八へ庄蔵渡ス

覚　　元明屋敷番伊賀より山里伊賀被成　　北川甚助

高弐拾六俵三人扶持

内、七俵五升地方

拾八俵三斗御蔵米

右甚助地方御蔵米御扶持方御証文出候様奉願候、以上

子二月　　西丸山里勤　伊賀

一、同三月村垣吉平、古坂与吉御本丸添番ニ被仰付勤之儀は只今迄之通、山里御番所相勤可申旨被仰渡

一、同廿一日若狭守殿より申来分限帳改出ス

一、閏壬五月三日阿波守殿より申来西丸分限帳改出ス

一、五百石以下一統拝借、当子暮上納、委細拝借上納帳ニ記

山里御番

一、子年中御番皆勤正月朔日より閏五月共十二月廿七日迄御番数百四十三

一、享保十八癸丑年三月五日阿波守殿より申来御留守居部屋被置候、分限帳改出ス

一、同五月朔日廻船へ地借り与兵衛其外近所絹ヤ五兵衛、弥兵衛参り咎ニ逢候て大岡越前守殿へ双方出候処、菊蔵働ニて内分ニて済

一、同七月十日以前より七月中、世上一統風邪病人有之、諸役人番方共ニ相勤候者無之、山里勤之内ニも不相勤候者過半有之、少々ツヽ煩候者押て勤候も有之、段々入替り勤候故、御番所ハ明キ不申候へ共、居次ニ相勤日々ニ代合候者無之節も有之、押て勤候者ハ薬持参いたし薬服用、尤も髪月額共御番所ニて仕り相勤候、此節菊蔵も煩不申無懈怠相勤申候

一、同八月廿六日御老中松平伊豆守殿御渡被成候御書付、松平阿波守殿右御書付御渡、御礼廻り御同役中へ参り候様御申被成候

七月十日より同廿九日迄之内煩無之相勤候分、御番二欠候分、先達て書付被出候、西丸山里、伊賀者先頃一統病気之節骨折相勤候段、可被申渡候

八月

一、同九月倉地文左衛門儀西丸御休息御庭方福島嘉右衛門跡役ニ被仰付勤候内、四拾俵高御徒目付格ニ被仰付

一、同月十一日従弟遠藤源兵衛病死忌中断ニて、三日引、源兵衛病死始終

一、五百石以下一統拝借当丑暮上納

一、山里御番丑年中御番皆勤、正月朔日より十二月廿九日迄御番数百卅三

一、享保十九甲寅年

一、同五月、当年山里勤之者不足ニ付、去ル亥年之格を以藪主計頭殿被仰渡十二日より一昼夜共ニ三人ツヽ相勤、但、此節勤候人数七人有之、壱人ツヽ休を立勤候処、六月二日より加太夫煩引、同廿四日より庄太夫御用引、弥勤候者不足ニ付、西丸御広敷伊賀弐人助番、亥年之格を以主計頭殿被仰渡、尤助番之者新御門出入共諸事亥年之格ニ相済候、御番割

六月廿五日より

横井藤四郎　杉浦助之丞

北川甚助　松下菊蔵

矢部庄蔵　助山口源次郎

助西田五郎右衛門

同廿六日

一、同八月十日左之通認阿波守殿へ出ス

寅六月廿五日より

横井藤四郎

右本番人一昼夜四人宛ニて相勤候処、御人少ニ成候付、五月十二日より一昼夜共ニ三人宛相勤候様ニ藪主計頭殿被仰渡、都合本番人七人ニて相勤申候処、此内御用引并病人等御座候ニ付、六月廿五日より西丸御広敷伊賀者両人助番被仰付候、此段藪主計頭殿被仰渡候、依之右名前之通隔番ニ相勤申候

寅五月十三日より御用引　山里勤添番　古坂与吉

同六月廿四日より　同所勤伊賀　西村庄太夫

西丸御修復御用引

同六月二日より煩引　同断　明楽嘉太夫

同四月廿四日より煩引　同断　後藤七郎右衛門

同三月廿九日より煩引　山里勤添番　村垣吉平

西丸御広敷伊賀より助番　北川甚助　矢部庄蔵　西田五郎右衛門

同廿六日　杉浦助之丞

西丸御広敷伊賀より助番　松下菊蔵　山口源次郎

同二月廿六日より煩引　　同所勤伊賀　小泉籐五郎
同断　明キ壱人
倉地文左衛門跡
山里御番所

八月十日

一、五百石以下拝借当寅暮上納

一、同十二月二日古坂与吉方より手紙来ル、明日藪主計頭殿御申聞被成候儀有之付、四時過菊蔵、甚助事与吉致同道西丸へ罷出可申候、尤裏付上下ニて罷出候様申越候

一、同三日西丸陰時之（計ヌケカ）間新部屋え与吉同道ニて菊蔵、甚助罷出候処、右両人御庭御用相勤可申候、与吉、庄太夫と申合候様ニ藪主計頭殿被仰渡候

一、同月法心院殿附伊賀宮地六右衛門儀山里伊賀明跡へ被仰付候、倉地文左衛門跡也

一、同月去ル巳年六月十九日以来御番皆勤、菊蔵当年迄ニ十ケ年皆勤ニ付与吉、主計頭殿へ申達候処、数年皆勤之者え御褒美被下候、例御聞及無之御役替等も当時御心当も無之ニ付、御側衆へ御達、三年皆勤之者へ御内証ニて御褒美銀壱枚ツヽ被下候、陰時之間、新部屋ニて主計頭殿被仰渡御金被下候、此節菊蔵頂戴

一、山里御番、寅年中、御番皆勤正月二日より十二月晦日迄御番数百六十六、外、御庭御用日数三日、十二月七日、廿日、廿一日也皆勤

一、享保二十乙卯年

一、同三月九日明屋敷番伊賀より平山吉右衛門、中村甚五郎両人山里伊賀被仰付、御留守居松平阿波守

殿被申渡候

一、同閏三月矢部庄蔵病気ニて御番引罷在候処差重り候、実子無之付、甥岡杉松之助妹婿二男二丸同心岡杉新兵衛養子願、御月番松平阿波守殿へ菊蔵持参、用人中島武七郎へ渡候処、御譜代ニて地方も有之同姓之者養子願候事、御承知之由申聞候、尤御宅へ参り候て同　病気重り御届并願書、由緒書共ニ出ス、同日夜ニ入、用人尾崎浅右衛門を庄蔵宅へ被差越御大法之儀故、養子判元見せ可申旨ニ付、願書へ庄蔵印形仕候、但、加様成大病ハ書判難仕ニ付、御断申上印形仕事也、同日病死之御届、阿波守殿宅へ菊蔵持参、用人坂野左市郎申達候処、追て松之助忌服請可申旨申来り候

一、同四月十九日当分高麗喜右衛門方ニ差置候養針、今日出奔委細

一、同五月六日、明屋敷番伊賀妹尾茂右衛門、下野仁左衛門、柏屋長之助等福山半助宅ニて刃傷、同席ニ平山吉右衛門罷越候ニ付、相尋候事も有之可被得其意旨、町奉行大岡越前守殿御留守居月番諏訪若狭守殿え被談候故、其旨此方仲ヶ間へ御達被成吉右衛門御番差控仲ヶ間へ御預ヶ可被成趣ニ候処、右之趣藪主計頭殿へ申達候処、山里勤之者御用向多預り申事難成旨若狭守殿へ可申達旨御申被成、此儀ニ付て若狭守殿、主計頭殿御両所へ菊蔵数度参上、若狭守殿御聞届吉右衛門儀は従弟野村清次郎　御本丸切手御門番之頭佐山庄左衛門組同心、　吉右衛門地主三浦金右衛門御本丸御広敷伊賀、右両人へ御預ケ折々山里伊賀も見廻り可申旨御申付候故、仲ケ間折々見廻り候、吉右衛門願之筋諸用事清次郎、金右衛門より菊蔵へ申聞候て仲ケ間へも致相談候、九月六日　吉右衛門儀大岡越前守殿役所ニおゐて御叱ニて相済帰番いたし候

吉右衛門山里伊賀ニ成、親之名ニ改直右衛門申候処、此節越前守殿役所ニて元之名吉右衛門を何レも

申立候故、此儀ニ付てハ越前守殿より吉右衛門と始終申来候、
半助宅へ出会候者半助舅妹尾茂右衛門を下野仁左衛門、粕屋長之助切懸ケ申候、其場ニ御本丸伊賀藤井文次郎、山里伊賀平山吉右衛門、御先手組同心高木十太夫罷在候由、吉右衛門ハ明屋敷伊賀之節より右之者共入魂故、山里伊賀に成候ても右之節出合在候由
六月二日大岡越前守殿役所へ吉右衛門儀罷出候段、野村清次郎、三浦金右衛門より山里伊賀へ届申越候
吉右衛門病気ニ付左之書付取置候、但、此方へハ当名直右衛門と認来候
平山直右衛門儀、当月朔日より少々不快ニ御座候処、早速快御座候、二日ニも大岡越前守殿役所え召連罷出候、又候昨日も少々不快ニ御座候処ニ、早速快今日も無事ニ罷在候、右之体ニ御座候得ハ癒ニても可有御座と奉存候、以上

六月四日　　野村清次郎

松下菊蔵殿

九月六日大岡越前守殿於役所左之通被申渡、仁左衛門、長之助、十太夫三人は追放被仰付、茂右衛門、半助両人は御切米御扶持被召上、文次郎、吉右衛門両人は御叱ニて相済、越前守殿吉右衛門へ被渡候御書付左之通

山里伊賀者

叱り置可申候

平山吉右衛門

右之通本多中務大輔殿御書付を以被仰渡候付

叱り置申候、以上

九月六日

一、五月八日御留守居衆へ出候書付左之通

西村庄太夫
松下菊蔵
北川甚助
宮地六右衛門

右四人此間中より西之御丸大奥境御修復御用被仰付候

後藤七郎右衛門
横井藤四郎
杉浦助之丞
中村甚五郎

右四人山里御番所隔番ニ相勤申候

御本丸御用引　古坂与吉

卯五月八日　山里御番所

一、同六月無右堂之刀一腰調之

一、同十一月例之通菊蔵御役出願、与吉吹挙ニて御月番阿波守殿え書付出ス

一、五百石以下一統拝借金当卯暮上納

一、同十二月十四日、藪主計頭殿へ与吉、庄太夫、菊蔵、甚助、六右衛門右五人当年中御普請場御庭御

用共相勤候日数書付上ル

一、同　右五人陰時計之間新部屋ニて藪主計頭殿被仰渡御庭御用相勤骨折候ニ付、例年之通御金被下旨被仰渡御金も右同所ニて御渡被成候、尤御内証ニて被下儀故裏付上下ニて罷出頂戴、御礼廻り御側衆大久保伊勢守殿并藪主計頭殿へ参上、但、奥之番六人之衆へも参上、右員数ハ与吉格式添番故、銀弐枚残り四人ハ銀壱枚ツヽ被下候、菊蔵、甚助、六右衛門三人当暮より初て頂戴也

一、山里御番

卯年中御番皆勤正月二日より閏三月共、十二月廿九日迄御番数百六十七外、但、御庭御用日数五十三日、正月廿二日より十二月廿日迄也、皆勤

「元文ト改元」「朱書」

一、享保二十一丙辰年正月朔日より平山直右衛門煩引、同二月小普請入願松平阿波守殿事、主計頭殿え申上候処、地方取伊賀ハ小普請入難成段直右衛門へ申聞候様ニ主計頭殿御申候由、用人尾崎浅右衛門菊蔵へ申聞候ニ付、明屋敷組入願申上置候

一、同四月七日直右衛門願之通、明屋敷組入被仰付旨、松平阿波守殿被申渡候、名代菊蔵罷出ル、但、主計頭殿宅ニて御申渡被成候

一、同五月七日改元被仰出

一、元文元丙辰年八月藪主計頭殿被仰渡、大納言様小菅御殿御止宿御成被仰出候、御止宿之節小菅御殿御番相勤可申旨、諸事伺候儀も候ハヽ段々可申上旨御申渡被成候、尤拾弐人共不残罷越可申旨御申渡被成候

一、同廿一日山里御番所外へ相渡候ハヽ勤方并御番所御道具等引渡之儀、拾弐人申合候

一、同九月十四日小菅勤番之節、落物遣候申合いたし候

一、同廿三日小菅ニて下宿へ新組両人請取候願済、先達て左之願書藪主計頭殿へ差出今日相済候間、御賄方石井半右衛門へ与吉申談置候

欄外（朱書）
「元文元辰」

一、新組両人　主計頭殿御附札（御賄頭へ相談シ新組請取可申候）

右小菅御旅館御構之内、拙者共詰所へ請取申度奉存候、御〆切之内ニ相詰候て家来差置候儀不罷成候間、右之通奉願候、以上

九月　　山里　添番
　　伊賀

右願書出候以前小菅へ見分ニ与吉、庄太夫、七郎右衛門罷越候、小菅御殿ハ伊奈半左衛門殿下屋敷之内有之構之内ニ住宅之者半左衛門殿家来両人百姓五、六人も有之、右百姓之内長右衛門と申者之宅下宿ニ相極り候間、長右衛門へ談候処、家内之者共其儘罷在宿仕度旨申候故、為火之用心差置度旨主計頭殿え十月十九日伺書出ス

一、同廿四日藪主計頭殿より申来、小菅御留守中山里勤番之伊賀之者、山里番御所迄勤方之儀承合ニ参候様ニと御広敷番之頭中へ申通候間、参り候ハヽ勤方之儀具ニ可相伝旨御申越被成候

一、西丸御広敷伊賀御番所迄参候付、具ニ申達候、尤新御門出入之御断去巳年山里拾弐人御断候書付を

以、通路被致候様ニ申達書付渡ス、定式之支度之儀左之通、藪主計頭殿へ差出相済

一、御留守中山里勤番之者共支度定式之通相廻候様ニ被仰付可被下候、外ニ四之間弐人分出御前日朝夕夜食共并御当日朝迄定式之通相廻候様被仰付可被下候

一、御番所引払之節、御広敷より請取ニ参候者共、朝六時迄ニ参候様ニ被仰付可被下候、以上

十月　　山里添番

伊賀

右願書之儀ハ先達藪主計頭殿小菅御成之節、出御迄ハ本番之者両人御番所ニ罷在差添相勤、出御已後御跡ニ附小菅へ罷越申候様ニ可仕旨、御申渡被成候ニ付、右願書出ス

一、同十月廿九日左之通御申越被成候

来月四日小菅え御成ニ付、御自分并伊賀衆三日より拾人計御前え御越可有之候、残り両人は先達て申候通、大納言様出御迄山里御番所ニ差添、残り被申候様ニ可被致候、依之申入候、已上

十月廿九日　　藪主計頭

古坂与吉殿

猶々、右小菅え被参候段、御留守居衆へも御申達可有之候、以上

一、御留守居衆へ左之通

来十一月四日ニ大納言様、小菅え御成之儀被仰出候ニ付、仲ケ間不残前日より小菅え出立仕候、依之御届申上候、以上

十月　　山里伊賀

一、小菅御成先御番割暮六時より朝迄、不寝御番所四ケ所一ケ所弐人宛、外ニ詰番所一ケ所日中四人宛
右之通相勤申候、以上
十月　山里伊賀
右之通書付差上ル、与吉ハ御本丸御広敷番之頭支配故、番之頭中へ申達候
一、五百石以下一統拝借上納之儀、小菅御供ニ付納日難定旨、御留守居衆へ申達、委細
一、同十月廿七日、小菅御用懸り御本丸御目付大岡右近殿、西丸御目付安部式部殿、与吉へ御申聞、小菅下宿長右衛門事其儘差置候様ニ伊奈半左衛門殿え被仰遣候由、并小菅ニて木銭御扶持方代共、於江戸御目付衆之方ニて請取御渡候様ニ御徒目付申候、与吉申合候、小菅御用懸り御徒目付、西丸ニてハ沢弥三郎、熊谷、次郎右衛門也
一、於小菅勤方伺置候処、左之通御書付被成、藪主計頭殿御渡被成候
一、夜分御成還御御門え挑灯とぼし可罷在事
一、御〆り之内え夜ニ入候てハ御目付衆よりハ留メ可申事、惣て山里腕木御門之通可相心得事
但、御挟箱急出入之品有之候ハヽ奥之番より別断可申事
一、雨天之節ニ御番所代り合通ひ傘、合羽差用可有之事
十月
一、衣類びゃくゑ之事、もゝ引ハ無之事
一、御門明罷出候節、刀帯し可然事
一、於小菅え罷越候刻御殿ニて奥之番寺島又四郎殿、彦坂五郎右衛門殿御渡被成候左之書付

一、御殿後北　廿壱間　一、御殿脇東　三十三間
一、御殿前南　三十四間　一、御殿脇西　拾九間
一、於小菅、主計頭殿御渡被成候御書付、御近所出火之節ハ土圭間へ不残集り奥之番へ御通可有之事
一、同十一月三日、小菅え罷越候者共、与吉、菊蔵、弥三郎、藤四郎、七郎右衛門、条左衛門、源八郎、甚五郎、甚助、清七都合拾人
一、同四日御成出御跡より庄太夫、六右衛門両人小菅へ罷越候
一、御成直ニ処々御鷹野有之、暮六時過小菅御殿え中御門通り還御、御待請、能登守殿、出羽守殿、対馬守殿、又四郎殿、五郎右衛門殿、其外御扈従、御小納戸衆、御供御先因幡守殿、中御門菊蔵、東御門西御門、仲ケ間詰合不申〻切詰所庄太夫、六右衛門
一、御止宿中御供御老中松平能登守、若年寄小出信濃守、御側衆大久保伊勢守、水谷出羽守、戸田土佐守、新御番頭之格奥詰藪主計頭御扈従高井但馬守、大岡出雲守、藪仙太郎、高井飛騨守、奥村市正　安藤下野守、曽根玄番頭、吉川備後守、田沼新助、高島采女、大岡紀伊守、奥村周防守、笹本靭負佐、稲生摂津守、橋本丹波守、藪美濃守、橋本大炊頭、御小納戸頭取上原因幡守、鈴木対馬守、本多志摩守、御小納戸奥之番寺島又四郎、彦坂五郎右衛門、御小納戸小笠原上総介、平塚喜右衛門、冨松喜兵衛、小林安太夫、橋本織部、野村角右衛門、渡辺次郎右衛門、神尾伊兵衛、贄善之丞、太田権之右衛門、長谷川半四郎、小笠原弥太郎、岡山左五八、山本伊織、岡村弥右衛門、長田十右衛門、村上金蔵、伊藤弥平太、多門伝八、鷲巣伊左衛門、福島助一、本多左門、大屋図書、其外御医師末々迄右奥向、其外表向御持御先手御目付、諸役人末々迄

一　御止宿十一月四日より同七日迄

一　御止宿中菊蔵勤番、御成前日三日泊番三番所御成御当日四日泊番四番所六日泊番二番所四日明六ツ時より朝五時過迄同九時過より暮六時迄、五日八半時より七ツ時過迄、六日五時前より九時過迄還御跡七日夜泊番一番所

右泊番何レも不寝暮六時より明六時迄、八日夕方迄小菅ニ罷在候

伊勢守殿、対馬守殿夜中見廻り御止宿中一両度、又四郎殿　五郎右衛門殿ハ夜毎ニ両度ツヽ見廻り、何レも不時ニ御出御廻り

右勤番仲ケ間中ニて菊蔵、脇ニて相勤、仲ケ間中励共ニ相勤申候

但、御庭之内御番所四ヶ所詰所一ヶ所、四ヶ所ハ不寝番所、一ヶ所ハ昼之内詰所、御成前日夜還御之日夜御跡此両夜御成前夜は四ヶ所共勤番、還御跡之夜ハ一番所、四番所計勤番

一、下宿長右衛門方ニて食事仕立候ニ付、先達て御勘定方御殿詰組頭祖父江作左衛門殿へ菊蔵談し置、十一月三日於小菅、伊奈半左衛門殿家来落合治部八、古川与右衛門より勝手諸道具請取、新組権六、七平仕立申候、食事元〆入用懸り惣仲ケ間ニていたし候、勿論右両人下働も相勤候

十一月四日古川与右衛門へ菊蔵談し水風呂桶借り用候、後々定式ニ相渡り申候

一、小菅御扶持一日壱人前、米壱升ツヽ木銭三拾五文ツヽ相詰候日数被下於小菅三ケ日分御徒目付より御小人目付ニ為持下宿へ遣請取、残ル日数ハ跡より請取

一、同七日小菅出御、直ニ所々御鷹野、夫より西丸へ還御

一、同日西丸へ還御前ニ小菅より仲ケ間両人山里御番所罷帰り、助番之者へ差添直勤番八日より御番所

此方へ請取、助番不残相止、尤御成之節段々出立之者御留守ニ被残候、奥之番衆へ御届申候て出立、小菅へ到着之節、小菅ニ被詰候奥之番衆へ御届申候、還御之節も同断

一、菊蔵九日より山里御番所勤番、惣て小菅之御供前後共休無之

一、此度小菅御殿ニ始終被詰分御小納戸頭取対馬守殿奥之番又四郎殿、五郎右衛門殿、其外御用向々ニて諸役人残り候

一、同十一月十八日御留守居衆より左之通

此度小菅え御供仕候、山里伊賀之者不残御用之儀有之候間、明十九日五時西丸へ可罷出候、明日山里当番之者ハ罷出不及候、以上

十一月十八日　　内藤越前守

山里御門番人

伊賀之者中

当々仲ケ間へも早々可申達候、尤罷出候者姓名書付并当番之者姓名書付今晩一人我等宅へ持参可致候、以上

右御請用人迄手紙遣明日罷出候分并当番之分姓名書付庄太夫持参用人へ渡ス、与吉ハ番之頭中より申来ル、是ハ明十九日ニてハ無之

一、同十九日庄太夫、菊蔵、条左衛門、七郎右衛門、甚助、甚五郎、源次郎、弥三郎八人麻上下ニて罷出、西丸焼火之間於御廊下越前守御書付被申渡左之通

金三百疋宛　　山里伊賀之者　拾壱人

小菅御逗留中初て之儀骨折候ニ付、為御褒美被下之、右御金ハ西丸御納戸ニて相渡候付、庄太夫、七郎右衛門、甚五郎請取来ル

一、右御礼廻り大久保伊勢守殿、藪主計頭殿、鈴木対馬守殿、寺島又四郎殿、彦坂五郎右衛門殿、熊倉斧右衛門殿、日根野権之助殿、岡山新十郎殿、保々八郎右衛門殿、御留守居大久保下野守殿、内藤越前守殿、松平主計頭殿、滝川播磨守殿え参り候

御褒美之儀御用懸り之衆ハ格別勤番方へ被下候は外ニ無之、尤御内証ニて被下候てハ目立不申候ニ付、表立被下候段、藪主計頭殿、与吉へ御申聞被成候

一、同月来ル廿五日小菅御止宿被仰出旨、奥之番衆より申来ル、諸事先格之通願書出ス、御留守居衆へも御届申達候

一、同十一月廿四日小菅え罷越候者共与吉、六右衛門、清七、甚五郎、弥三郎、甚助、源八、条左衛門、庄太夫、藤四郎、都合拾人

一、同廿五日御成出御跡より菊蔵、七郎右衛門両人小菅え罷越候

一、御止宿十一月廿五日より十二月三日迄

一、御止宿中、菊蔵勤番不寝番廿五日夜ニ番廿六日夜四番廿七日夜四番廿九日夜二番晦日夜三番十二月朔日夜四番還御跡三日夜廿六日より同十二月三日迄八ヶ日昼勤、尤食代り之間休四日迄小菅ニ罷在候

一、七郎右衛門眼病ニ付廿九日より勤番御断申引

一、同三日小菅出御西丸え還御

一、同日西丸へ還御前ニ小菅より仲ケ間両人甚介、弥三郎、山里御番所へ罷帰り助番之者へ差添直勤番

四日より御番所此方へ請取、助番不残相止、奥之番衆へ届之儀去ル十一月四日御止宿中之通り申達候

一、菊蔵五日山里御番所勤番

一、此度小菅御殿ニ始終被詰分、御小納戸頭取対馬守殿奥之番又四郎殿、岡山新十郎殿、其外御用向々ニて諸役人残ル

一、前々之通り下宿長右衛門方ニて食事仕立候ニ付、例之通勝手道具請取、新組権六、七平仕立申候、勿論下働前之通

但、食事仕立元〆入用懸り惣仲ケ間ニていたし候処、廿八日より菊蔵壱人ニて元〆勤、尤勤番も乍相勤いたし候

一、小菅御扶持方并木銭共前之通請取

一、同　御庭御用相勤候ニ付、五人共御内証ニて御褒美被下旨、陰時計之間新部屋ニて藪主計頭殿御申渡、御金坊主衆引之

山里御番

一、辰年中御番皆勤正月二日より十二月廿九日迄御番数百廿六、外、小菅勤番十六皆勤、御庭御用日数二十日、正月七日より十二月十九日迄也、皆勤

一、元文二丁巳年二月十一日小菅御成、同十五日還御、諸事去年之通り米木銭ハ千住四丁目名主五左衛門方ニて伊奈半左衛門殿家来より相渡り候、此段御徒目付藤井利八郎より知せ申来ル、此節新組両人之内権六計七平ハ代り壱人共両人、同十日より同十五日迄小菅ニ罷詰

一、此度小菅御殿始終被詰分、御小納戸頭取対馬守殿、奥之番新十郎殿、日根野権之助殿

一、同四月十二日小菅御成、同十五日還御、諸事前々之通り、此節より新組両人共代り人

同十一日より同小菅相詰

但、最初十一日御成ニ付、十日ニ例之通小菅え罷越筈ニ付、段々罷越内与吉、条左衛門、源八、菊蔵下宿迄参着之処、御成御延引十二日御成可被遊旨被仰出候段、小菅ニおゐて対馬守殿御申渡、御成日間も無之候間、直ニ小菅ニ罷在候共勝手次第之由、御申聞被成候故、与吉、条左衛門ハ罷帰り、源八菊蔵ハ直ニ小菅ニ罷在候、尤新組両人も罷帰り候、前日罷越可申拾人之内、四人は右之通り残り六人ハ御延引、江戸ニて奥之番衆被仰聞候ニ付出立不致候

一、御止宿中菊蔵勤番不寝番十一日夜一番十二日夜二番十三日夜四番十五日夜一番、十二日より十五日迄昼勤四ケ日食代り之内休十六日迄罷在候

一、此度小菅御殿ニ始終被詰分、小納戸頭取対馬守殿、奥之番八郎右衛門殿、新十郎殿、日根野権之助殿

一、同九月来ル廿七日、竹千代様山王御宮参り被遊、還御之刻井伊掃部頭殿へ御立寄被遊候ニ付、掃部頭殿宅へ勤番可相勤旨、廿三日藪主計頭殿与吉、庄太夫両人被仰付、同廿四日菊蔵被仰付、都合三人

一、同廿六日明廿七日掃部頭殿へ参り候三人之者、衣服之儀は年始之通りニ候、熨斗目着候者明日熨斗目着可申候、尤服有之者ハ罷越申間敷候間、其段申聞候様ニ御申候由、山里当番甚助より申越候、

但、菊蔵儀外両人より跡ニ被仰付候間、諸事支度心懸ケ之ため今日在宿ニ付甚助方より申来ル

一、同日明廿七日掃部頭殿へ参り候て食物之儀ニ付左之通

山里

添番壱人
伊賀弐人

右は来ル廿七日井伊掃部頭殿え勤番之者共支度之儀奉願候、以上

巳九月

右之通認御懸り寺島又四郎殿、彦坂五郎右衛門殿へ与吉差上候処、掃部頭殿へ参り候諸向共、御台所支度ハ廻り不申候へ共、可然様ニ被成可被下旨、御申聞被成候

一、同日御留守居衆へ左之通届書出ス、与吉ハ例之通御本丸御広敷番之頭衆へ届申候

西村庄太夫
松下菊蔵

右両人

竹千代様御宮参り御当日、井伊掃部頭殿へ勤番可仕旨、藪主計頭殿被仰渡候、依之御届申上候、

以上

九月廿六日

右書付内藤越前守殿へ菊蔵持参

一、同日夜ニ入与吉方より来状、奥之番衆より申来候由ニて、明朝直ニ掃部頭殿へ参候様ニ先刻申合候処、明朝六時前西丸へ三人共相揃奥向之衆と一所ニ参候様可致旨申来ル

享保十六亥十二月より当巳年迄、亥年より当巳年迄皆勤都合七年

北川甚助

右四人之外ハ年々皆勤無之

一、同十月内藤越前守殿より申来、菊蔵由緒書差出候様ニ可仕候、表火之番明有之由、同十八日由緒書出ス、同廿日右由緒書之末ニ祖父以来遠慮・逼塞・閉門不仕候哉否之儀書入可出候、此儀近年被仰出有之候間、御役出願之節出候由緒書之末ニは書入可申旨用人申聞則書入出ス

但、自是前、松平主計頭殿へも菊蔵御役出願申達候、右御留守居衆へ申立候儀前々之通、与吉吹挙被致候、尤十一月滝川播磨守殿、十二月内藤越前守殿へも二丸表火之番、進物取次上番三之丸御侍抔明跡願申候

一、同十一月来ル廿一日小菅御止宿被仰出旨奥之番衆より申来ル、諸事先格之通願書出ス、御留守居衆へも御届申達候、但、小菅ニて米木銭請取下宿ニて仕立候儀相止、小菅ニて御賄仕立有之ニ付、此度より左之通藪主計頭殿へ願書出ス

於小菅私共米木銭請取、手前ニて仕立請取候、新組両人ニも右之内給させ候処、今度御台所支度奉願候ニ付、両人之新組ニも御台所支度被下候様ニ奉願候、以上

巳十一月　　山里添番

伊賀

右ハ先達て添番伊賀支度之儀相願候処、相済候ニ付右之通願是又相済、右之通之趣ニ成候間小菅ニて下宿へ請取候道具減左之通願書出

覚

一、行燈　但、油共　壱ツ　　一、手桶　但、ひさく共　壱ツ

一、水桶　壱ツ　　一、たらい　壱ツ

右之通於小菅私共下宿へ御借シ被下候様奉願候、以上

巳十一月　　山里添番
　　伊賀

小菅ニて御台所支度之儀左之通西丸ニて奥之番衆迄申上相済

覚

前日小菅御先え罷越候人数　　添番壱人
　　伊賀九人
　　外に新組両人

右御成前日夕支度より　　伊賀弐人

右御定日夕支度より

右都合拾弐人支度相廻り候様御断可被下候、以上

巳十一月　　山里添番
　　伊賀

右之通ニ相済小菅ニて支度場へ罷越朝夕夜食共々三度ツヽ毎日支度いたし候ニ付、下宿ニてハ茶煎させ候計其道具ハ下宿之有合用申候、尤新組両人も右之通支度いたし候

但、支度場之儀去辰十一月初て御止宿之節より辰十二月御止宿迄ハ伊奈半左衛門殿承りニて諸向米木

銭諸賄等迄被相勤候処、御入用高多ニ付、小菅相詰候末々迄之食物は御賄頭え被仰付候故、御賄方ニて入札ニて町請負鍵屋清五郎へ申付、支度場ニて仕出御賄方役人吟味いたし支度為致候

一、御成廿一日、還御廿四日、例之通前日廿日より仲ケ間小菅え罷越、御成御当日御跡より菊蔵、甚助罷越

但、甚助、藤四郎之筈ニ候処、山里御庭之内御用有之ニ付、菊蔵、甚助残、御当日御跡より小菅へ罷越候

一、御止宿中菊蔵勤番不寝番、廿一日夜二番廿二日夜三番廿三日夜四番廿三日昼勤廿四日ニは御先罷帰り、山里御番所へ罷出、助番之者ニ差添勤番

一、此度小菅御殿始終被詰分、御小納戸頭取対馬守殿、奥之番八郎右衛門殿、熊倉小野右衛門殿

一、同閏十一月来ル廿四日小菅御止宿被仰出候旨、奥之番衆より申来、諸事先月之通願済、御留守居衆へも御届申達候

一、右御成御場悪敷ニ付御延引

但、此間雨天ニ付御鷹野場御用立不申候由、右御延引ニ付、山里助番廿四日山里御番所相詰候へ共、直ニ入代此方之者共勤番

但、此節仲ケ間之内甚五郎は病気、六右衛門ハ忌中ニ相成、其段奥之番衆へ申達、御人少ニて相勤申事難成場所故、六右衛門忌御免被成候間、小菅へ罷越相勤可申之旨、大久保伊勢守殿、藪主計頭殿被仰渡候由、奥之番衆被仰聞六右衛門ハ勤番仕筈ニ成候事

一、同十二月来ル十一日小菅御止宿被仰出候旨、奥之番衆より申来、諸事当十一月之通願済、御留守居衆へも御届申達候

一、御成十一日、還御十三日、此節より仲ケ間中御当日朝小菅え出立、残弐人は例之通ニ御跡より出立御成前日小菅え罷越候儀、此節より止候、還御之節十三日菊蔵、弥三郎御先へ罷帰り、山里御番所助番之者ニ差添、例之通勤番

一、御止宿中菊蔵勤番不寝番十一日夜十二日昼勤番、十三日ニは前条之通山里勤番

一、此度小菅御殿始終被詰分、御小納戸頭取対馬守殿、奥之番小野右衛門殿、又四郎殿

一、同廿七日五百石以下一統拝借上納、例年之通納

一、山里御番巳年中御番皆勤、正月二日より閏十一月共十二月晦日迄、御番数百四十四、外小菅勤番十七皆勤、御庭御用日数五十九日、二月朔日より十二月廿七日迄也、皆勤

一、元文三戊午年正月三日より当番帳書判改　花押

一、同月三之丸御侍平岩与左衛門添番ニ成候跡願申候、去十二月与左衛門添番被仰付、其明跡去暮願可申処、月廻ニ成御人吟味無之故、当正月願書出ス、尤御留守居

一、同三月御役替願出ス、此節ハ進物取次上番勝野三右衛門、太田与左衛門明跡願、有馬出羽守殿へ与吉願書持参、用人三重勘治申達、同五月奥之番彦坂五郎右衛門殿へ申達、藪主計頭殿より御留守居衆へ御相談被下候様ニ是又与吉被申達候

一、同六月廿二日弟松下養針病死

一、同八月九日御用之儀ニ付、御届申達事有之、例之通陰時計之間へ参上、奥之番岡山新十郎殿へ申達

済、此節御番所へ帰り候時分暮六時ニ成候付、吹上出人番所御門断之儀、新十郎殿へ申上候、御承知直ニ御目付衆へ被仰遣候、都て御門々出入之儀、享保十巳六月廿二日御留守居衆より定断相済候内出人番所之儀、昼夜断之内ニ入不申候故、夜ニ入候へハ毎度通し不申候、山里御番所より出候節ハ此御門より出所々御門通り候事ニ候処、昼夜断無之候へハ外之御門相済候ても通路難成ニ付、巳年中御留守居衆へ右之趣申達願候へ共、所々御門ハ御用之為昼夜断、西丸大手中仕切出人番所前之新御門ハ御番通計之道と計御心得断書御出被成候故、御断直し難被成品ニ付願候段、御聞届候へ共不相済候間、藪主計頭殿へ右之段申上候へハ差懸り候節之儀ニ可仕候、其節御留守居衆へ御達可被成候、可成程は御用も昼之内相済し、若夜ニ入候ハヽ奥之番衆へ申達、其時々ニ御目付衆へ御門断可被成由御申被成候故、前々夜ニ入節ハ奥之番衆へ申達御用は弁し申候、然共当番之内病気或は仲ケ間急用抔ニて御番所へ通路致度有之節不自由成事ニ候、尤表立大病等は如何様ニも御断願も成候へ共、申立程之儀ニて有之節ハ差支候事と兼々申事ニ候、今日右御届之儀有之罷越、及暮帰り新御門御断済候哉と尋候処、未相済不申候由同心中被申候間、御門外ニ相待罷在候、右御門隔ニて同心中と御門断之儀、巳年以来之事共承合候処ニ、御用之節ハ昼夜共出入之断有之由ニ候、左候ハヽ今晩御断相済通候ハヽ其節御断之書付被為見候様申達候処、御小人目付参り当時断済御門通し候間、直出人番所ニて定断之書付被見候処左之通、但、此節菊蔵罷通り候故写来ル

右御用之節、不限昼夜自分断ニて可被相通候、以上

山里御門番

伊賀之者

享保十巳七月　　御目付中

吹上御門出人番所

御門番中

右之通ニ付当御門夜中通候事ハ御用之外ニ相通候儀は無之候間、向後被相通候様ニ同心組頭坂金左衛門え申達候、当番御先手京極主計殿御承知之由、金左衛門申聞候

一、同十二月廿五日御留守居滝川播磨守殿より由緒書今日中ニ出候様申来、則認播磨守殿宅へ持参、用人奥村幸八を以差出ス

一、午年中御番皆勤、正月三日より十二月廿六日迄御番数百卅三、外小菅勤番六ツ皆勤、内七ツ忌中引御庭御用日数十五日、正月十六日より十月廿六日迄也、皆勤

一、元文四己未年

一、正月廿八日御留守居松平主計頭殿より左之通申来、明廿九日四時御用有之ニ付御本丸へ可罷出候、尤為御請主計頭殿宅へ今晩参候様申来、右手紙別紙ニ有之故爰ニ不記、則為御請七時分裏付上下ニて参上、用人坂野左市郎を以申達候

一、明廿九日山里当番ニ付、右之趣西村庄太夫、宮地六右衛門方迄案内申遣候、庄太夫明日当番相勤可申旨返事来

一、同廿九日御本丸焼火之間御廊下迄相詰申候段、御留守居部屋ニおゐて主計頭殿用人尾崎浅右衛門え申達、右御廊下迄罷越相詰候、尤今日は麻上下着用

一、焼火之間ニおゐて御本丸若年寄被仰渡ニて小普請組より大森甚四郎、二丸添番ニ被仰付済て、御本丸若年寄板倉佐渡守殿、西丸若年寄水野壱岐守殿御出座ニて、西丸御広敷御用部屋書役被仰付候旨、佐渡守殿被仰渡、主計頭殿御請被申候、此節焼火之間炉椽之向ニ佐渡守殿、壱岐守殿御出座、主計頭殿は焼火之間拭敷居之際迄被出、菊蔵同拭敷居之際迄罷出、平伏て被仰渡承ル

（欄外）

「西丸御広敷御用部屋書役勤始」

「元文四未」

一、同日西丸御用人衆へ松平主計頭殿より山里伊賀松下菊蔵西丸御広敷御用部屋書役被仰付候、各々御支配ニ候間、引渡可申旨被申越候処、御用人より返事ニ一色源太郎宅へ菊蔵参候様可被仰付候之由申来候旨、主計頭殿被仰聞候間、則源太郎殿宅へ参、源太郎殿御逢左之書付御渡、且明細書明日源太郎殿迄致持参候様被申聞候

御礼廻り之書付本紙ニは役附無之

御本丸御老中御用番　松平伊豆守殿
西丸御老中　松平能登守殿
御西丸若年寄　板倉佐渡守殿
西丸若年寄　水野壱岐守殿
同断　小出信濃守殿
西丸御側衆　大久保伊勢守殿

同断　　藪　主計頭殿

一、右之節左之書付源太郎殿御渡候

明後朔日榊原七郎右衛門於宅誓詞可被致候、朝五時前七郎右衛門宅え可被罷越候、尤麻上下着用可被申候

一、右七ケ所へ廻ル、尤御用人衆三人之宅へも参上、御留守居衆四人之宅へも参上、御用達衆三人同役三人其外前々より参附候御小納戸衆之宅へも参候、山里勤之元仲ケ間勿論古坂与吉宅へも参候

一、同晦日明細書源太郎殿宅へ致持参候、委細当用書控ニ記

一、二月朔日同役大鐘与右衛門同道、七郎右衛門殿宅へ参上、表屋敷ニて誓詞有之、七郎右衛門殿ハ袴着用、与右衛門裏附上下着用、菊蔵麻上下着用、誓詞之起請文・前書・罰文共ニ与右衛門覧之、菊蔵へ渡、菊蔵血判済与右衛門へ渡、与右衛門七郎右衛門殿へ進達判元御覧相済

起請文前書

一、今度西丸御広敷御用部屋書役被仰付候、昼夜無油断相勤之御法度之趣聊以違背不仕御後闇儀致間敷候、惣て各様被仰渡候、御用向相背申間敷候事

一、奥方向并御用部屋書物其外不依何事沙汰仕間敷候、及見及承候儀毛頭他言仕間敷候事

一、以計策悪事相頼輩於有之は不移時刻各様迄有体ニ可申達候事

一、好色猥之儀一切仕間敷候、万一御法度相背族御座候ハヽ仮令仲ケ間・親類・兄弟・縁者・知音之好身又は中悪敷者たりといふ共、無贔屓偏頗有体ニ各様迄急度可申達候事

一、以御威光奢する儀不仕、非分申掛間敷候事

右条々雖為一事於致違犯者、此所より罰文書

元文四己未歳二月朔日　　松下菊蔵判

大久保　三太夫殿

榊原　七郎右衛門殿

一色源太郎殿

一、右誓詞相済与右衛門同道ニて西丸御広敷御用部屋へ参、今日之明ケ番三太夫殿、当番源太郎殿、御用達明ケ番横山伝右衛門殿、当番米野弥兵衛殿、書役当番冨田三右衛門

一、源太郎殿、三右衛門へ御申渡候は菊蔵儀見習今日より三日可相勤候

一、与右衛門申聞候,御門平日共夜中も出入之御断相済候由、尤火事・地震之節は勿論出入之御断相済有之由、但、昼は判鑑有之、御留守居之御門通用木札ニて通り、七時より夜中之儀、右之与右衛門申聞候通り也

一、今日見習勤九時過迄相勤ル、今日切手御門、御裏御門、坂下御門入出之儀、未御門通用木札請取不申候へ共、同役同道ニて無滞入出いたし候

一、同二日当番七郎右衛門殿、御用達神谷清太夫殿、書役山口与次右衛門、見習菊蔵

一、一昨晦日松平主計頭殿、三太夫殿より菊蔵御門通用木札請取申度旨被申越、昨朔日右御門札弐枚被差越候間、今日七郎右衛門殿、伝右衛門殿ヲ以弐枚共ニ被相渡請取候、札之裏御留守居名焼印共ニ有之、表書左之通

西丸御広敷
書役
松下菊蔵
上下弐人
弐枚之内

表ニ

西丸御広敷
書役
松下菊蔵
小者壱人
弐枚之内

表

一、今日見習勤四時前より九時過迄相勤ル、右御門入出之儀、入候節は当分断ニて入、出候節よりハ右之札ニて出申候

一、御証文願藪主計頭殿え御用人衆より書付出ル、委細当用書控ニ記

一、御本丸御右筆表方組頭大橋藤九郎、新村伴之進、佐々木新三郎へ御用人三人より菊蔵分限高・御役被仰付候、日附共認被差越候

一、藪主計頭殿御広敷へ御出、御広座敷へ御通り、御帰り之節御広舗御玄関之上掛看板之下ニて、主計頭殿へ菊蔵懸御目候、七郎右衛門殿御取合ニて御役替之御礼被申上、御用達伝右衛門殿ニも侍座、翌三日主計頭殿宅へ菊蔵参上、昨日懸御目候節御姻意ニ被仰下候段、御礼申上ル

一、同三日当番三太夫殿、御用達伝右衛門殿、書役与右衛門、見習菊蔵

一、今日見習勤昨日之通り相勤ル

一、今日主計頭殿へ七郎右衛門殿御申候由、此間書役増人被仰付候付、御台所増断左之通書付差上候段申上御承知、前方も此通りニ候哉と御尋、証明院様御附之内書面之通相廻候旨被申達候

覚

西丸御広敷御用部屋

書役

毎日弐人勤　但、泊り壱人　「〇下下ケ札」（朱書）

右御台所夕御料理壱人増、定式相廻候様御賄方え被仰渡可被下候、以上

二月　　大久保　三　太　夫

下ケ札　唯今迄定式壱人前は朝夕夜食共ニ相廻り申候　　榊　原　七郎右衛門

此度弐人勤ニ成候ニ付、本文之通御台所壱人前　　一　色　源　太　郎

増申上候、以上

右御断御賄方へ下り書面之通相廻ル、但、朔日二日今三日迄ハ夕御料理同断、御用人押切印形ニて相廻り翌四日より御断之通相廻ル

一、今日七郎右衛門殿三右衛門へ御申聞候ハ、菊蔵増人ニ被仰付候間、向後前格之通書役四人ニて昼之内両人泊りは壱人之積ニ相勤候様可申合旨御申聞候、且又菊蔵見習今日限ニて明四日為相休明後五日より当番泊り共為相勤、尤初当番泊りニ付同役壱人添泊り可致旨、是又御申聞候

一、同五日当番七郎右衛門殿、清太夫殿、菊蔵、添泊り共与次右衛門昼勤三右衛門

一、今日四時菊蔵出勤、翌六日昼勤八時分迄勤ル

一、今五日初番故兼て同役へ致相談候処、三右衛門了簡ニて御菓子司鯉屋山城え申付、蕎麦切并酒ハ井桁屋与右衛門へ申付、役所ニて同役振廻いたし御用達清太夫殿へ三右衛門取合相振廻、御用部屋附御下男小仕者へも振廻候、且、御用人衆へも三右衛門御取合申御振廻申候、都て七郎右衛門殿源太郎殿

御用達衆三人、同役三人、御下男小仕者共ニ八人、不残当番之節三度ニ振廻、但、三太夫殿ニは惣て仲ケ間振廻御触之趣急度被相守軽共か様成事不承知ニ候間、三太夫殿へは披露不致候段、三右衛門より申聞候、尤随分軽振廻候様ニ三右衛門了簡を以振廻相済

但、当時御用部屋御修復有之ニ付、御修復相仕廻候已後、右之通り振廻いたし候、右三度之入用蕎麦切り代合六百文、一度弐百文ツ、

酒壱升五合、一度五合ツ、　代合

振廻候節豆腐吸物いたし候へ共、御用部屋酒食事等不足ニ無之所故、有合候品三右衛門取合候

一、由緒書・親類書近々差出候様ニ七郎右衛門殿御申聞、壱通ツ、認御用部屋へ差出ス、委細由緒書類控ニ記

一、同十一日当番三太夫殿ニて七郎右衛門殿、源太郎殿列座被致書付を以被申渡、御用達当番伝右衛門殿、明ケ番清太夫殿有合被申候、当番三右衛門昼勤菊蔵へ左之通七郎右衛門殿御申聞、同役へも申通候様被仰候

一、書役四人

一日両人勤泊壱人

但、三人ニ成候節は前々之通居越昼時迄

両人勤ニ成候間、明番之者当番と心得候て七時退出、御用多候節は泊り可有之事

一、御払前勘定寄御払之当日は非番之書役壱人罷出、昼之内三人勤之事

二月

一、同廿一日御証文下ル、委細当用書控ニ記

一、同廿五日春御借米并御扶持方手形下書書替所加筆相済来ル、委細当用書控ニ記

一、三月十日女中夏御借米請取ニ浅草札指伊勢屋四郎左衛門方迄与次右衛門罷越、御蔵ニて御蔵奉行衆へ申達、御蔵奉行衆改被渡候、与次右衛門請取四郎左衛門手代へ申付、御蔵場所ニて与次右衛門立会、入米之分兼て短冊之印形、五菜之男へ女中より被渡置候様ニ御用部屋より女中請取、石高と女中之名銘々短冊ニ認相渡、払米・入米之訳女中より認、御用部屋へ被差越、払米之分ハ御用部屋ニ残し置、入米之分目録ニ写留、女中へ相返、女中より五菜之男へ相渡、勿論短冊之印形ハ御用部屋之印形居之渡ス、右入米之目録書前日四郎左衛門方へ渡置、当日場所ニて目録之順ニ呼出し、与次右衛門方へ短冊五菜之男より請取、目録ニ引合入米四郎左衛門手代より五菜之男え為渡候、払米は四郎左衛門方ニて女中銘々勘定為致、翌日御用部屋へ払米目録添金子手代持参、当番之書役相改目録ハ御用部屋ニ残し置、渡し帳面ニ金高認、御使番へ改相渡右帳面へ表使衆之請取印形取置候、此節払米百俵ニ付金六十四両弐分替

但、書役増人被仰付四人ニ成候故、向後先格之通両人ツヽ可罷越旨申合候

右女中御切米御扶持方御合力金手形并御抱女中御証文願書、且御証文下り候節、書役致世話候訳ハ、女中より御用達衆并書役、右之品々致世話呉候様ニ先年被頼候、其趣は長福様二丸ニ被成御座候節、御附之女中人数も少、其中ニ紀州より被参候女中多、此方之勝手不案内故、御用達古郷左助殿へ被頼ニ付書役相談被致候ニ付、承知ニて致世話候由、其後大納言様と御官位被遊、西丸御表へ御移被遊、御附之女中は御本丸大奥へ引移、其已後御婚姻有之西丸大奥へ御簾中様御移被

遊候付、御附之女中御抱添増不残御簾中様附女中ニ成、西丸大奥へ引移、此節御附之御用人・御用達并書役被仰付、自是猶以書役致世話、御用達衆頭取被致候

古郷左助殿ニも西丸附ニ成候故、是又頭取被致候、其後御簾中様御逝去ニ付、女中并御用人・御用達・書役共ニ大納言様附ニ被仰付、其後竹千代様御誕生故御附之女中并御部屋様附女中被仰付

御三方様附女中右之世話書役承り候事也、右致方左之通

一、御切米高半分ツヽ、夏御借米、冬御切米と相渡候、勿論定式美濃米相渡り候、夏御借米ハ三月中、冬御切米ハ九月中請取候事恒例也、右手形下書認、御用達衆姓名ニて手紙添書替所へ遣し加筆を受、本紙ニ認尤程村紙也、右手形女中へ遣し、老女衆表印形ニて御留守居不残月番之御勝手方御勘定奉行并御勘定吟味役裏印済、手形女中より此方同役へ被差越、御用達衆被改、四郎左衛門手代御用部屋へ呼出し相渡遣候事

一、御扶持方手形毎月美濃紙ニ認、宛所ハ御本丸・西丸之御賄頭中認、女中壱人手形有り、連名手形有り、其趣ニ認女中へ遣し、不残女中印形済、此方同役請取、老女衆ヲ始直判之分残し置、御留守居裏印可取分西丸懸り之御留守居月番之衆へ、御用達衆手紙添遣裏印取直判共御賄方六尺頭へ相渡、尤御用達衆手紙添遣、西丸御賄頭より請取之返事取置候事、勿論白米渡り也

一、御合力金高半分ツヽ春冬御合力金と認候、春手形二月中、冬手形八月中ニ下書認、御用達衆手紙添候て御金奉行へ為見、其上ニて本紙ニ認、尤程村紙也

右手形女中へ遣ス、尤老女衆表印形之積りニ認候事

但、此手形老女衆表判済、御留守居衆へ被越、御留守居衆西丸御老中之裏印取女中へ被差越、女中

より番之頭衆へ出、添番伊賀御金蔵より請取、金子番之頭衆女中へも渡候之由

一、御抱女中有之節、其段女中より申出御證文願糊入半切紙ニ認、老女衆之名認女中へ遣し、女中より御留守居衆へ被越、御留守居衆能登守殿え被願、能登守殿御証文御印形被居、御留守居衆へ御渡、御留守居衆女中へ被差越、女中より此方御用達衆へ被差越、書役改御用達衆之姓名ニて書替、奉行壱通・御賄頭へ壱通添手紙ニて書替奉行へは奥御小人ニ為持差越、御賄頭へは御賄方六尺頭呼寄相渡、両所共請取之手紙取置候事、右御証文願・御証文両様共控役所ニ留記候事

一、四月御乳持之吟味有之、書役中妻差出可申者無之段、御用人衆より書付を以十九日若年寄衆へ御達有之

但、御乳持之儀、巳年御誕生前より御吟味有之、出産何月其外委細認差出候様御書付出、毎度吟味有之候、尤御目見以下之分并町人迄、望之者有之候へハ相願候事

一、五月竹千代様御旗御道具・菖蒲・御兜西丸中之口前より御裏御門際迄土手之方ニ建、御部屋様より御用ニ懸り候者え二月六日ニ強飯・煮染・御酒被下、此取扱御用部屋ニて懸り申候

一、同五日御広敷勤之惣中え粽被下、書役中壱人分えは大納言様、御部屋様より弐本宛被下

一、同廿日藪主計頭殿、西丸御広敷御用人え今日より御部屋様御合力金不残御預ケ被成候、榊原七郎右衛門請取来ル

一、同廿二日竹千代様御誕生日ニ付、御広敷勤之惣中え丸餅一重ツヽ被下

一、同廿七日藪主計頭殿、向後御部屋様御用懸り相勤候様被仰付候旨、能登守殿被仰渡候、尤竹千代様御用も只今迄之通御勤候事、但、只今迄ハ竹千代様御用ハ主計頭殿、御部屋様御用ハ大久保伊勢守殿

御勤候へ共、伊勢守殿去ル廿五日御側衆御免ニ付、御二方様御用主計頭殿御懸りニ成候、但、戸田土佐守殿今日御用懸り被仰付候、尤大納言様御用計御勤被成候筈、主計頭殿ニは御三方様御用御勤候事也、依之御広敷向女中衆御用部屋御用共主計頭殿諸事御懸り候事

一、六月十一日御部屋様御無卦入御祝儀有之、御酒・御肴御広敷勤惣中へ被下

一、一昨九日瑞春院様御法事、増上寺ニて有之、御部屋様御代拝、榊原七郎右衛門殿御勤、御香典・白銀三枚御備持参与次右衛門増上寺え参上、但、七郎右衛門殿、与次右衛門共麻上下着用

一、同廿一日御部屋様より金弐百疋被下

但、御用向兼勤候ニ付、六月御用人衆三人え白銀弐枚ツヽ、御用達衆三人え金三百疋ツヽ、書役四人え金弐百疋ツヽ、御附之女中藤崎・歌野両人之内ニて壱人、御用人衆え被申渡、尤此金御用部屋ニ預り置候御金、先達て右両人之内より申出相渡置候事、惣て御用金此方より相渡候事

一、七月十五日例年之通、公方様え御部屋様より被差上之御蓮飯刺鯖、御本丸御広敷え明六時為持参候ニ付、西丸老女衆御蓮飯御上り之小包改有之、老女衆封印相済、表使合印御用達米野弥兵衛殿へ被渡、大包内へ包入、御賄方役人ニ為包、弥兵衛殿改済、御本丸へ之御目録則表使より弥兵衛殿被請取、右品々菊蔵差添、蓮池御門通り御長屋御門御台所前通り御広敷へ参上、御広敷ニて御蓮飯刺鯖御広敷ニ飾セ御目録弥兵衛殿へ渡ス、弥兵衛殿被請取御本丸表使江被相渡候、尤弥兵衛殿菊蔵共白帷子麻上下着用、但、宰領は御小人持人御下男ニ候へ共、右品々人足ニ為持御下男も附添参候、右相勤候ニ付御用達え白銀三枚、書役并宰領持人え金千疋被下、御本丸表使弥兵衛殿へ被申渡、御使番銀金共持出候、西丸へ罷帰り、右被下物之御礼西丸之表使へも弥兵衛殿被申達候

但、未御部屋様附御膳所御台所人無之故、御用達衆書役相勤候

右千疋之内、四百疋書役四人へ取置、六百疋ハ御小人持人共へ遣候、右配分前格如此ニ候事

一、同廿五日御部屋様御合力米、浅草御蔵ニて御蔵奉行より弥兵衛殿被請取、菊蔵罷越候、御入米伊勢四郎左衛門へ預ケ、御払米四郎左衛門ニ申付候、勿論御米渡仕廻迄御蔵へ四郎左衛門も罷出候

但、御合力米高五百俵内夏弐百五拾俵・秋同断ニ請取、御手形書役相認、御用達衆より御附藤崎・歌野え相渡し右両人印形相済、御留守居衆遣し西丸御老中奥印相済、両人御用達衆へ被渡、御用達衆より四郎左衛門代御用部屋へ呼出し相渡、四郎左衛門書替所へ差出、御蔵奉行より四郎左衛門を以御勝手次第御請取候様申来請取参候事、右御用相済金三百疋ツヽ四郎左衛門へ被下候

一、御合力金高三千両内千五百両ツヽ、御手形前條之通ニて奥印西丸御老中相済、右両人より番之頭へ被渡、添番伊賀御蔵ハ蓮池御金蔵ニて千五百両之内小判歩判有之請取之御用部屋へ持参、御用人衆被請取、尤御用達衆立合被申候、書役諸事取扱申候て御金簞笥へ御用人御用達両判ニて納候事、勿論御払米代金同断ニて御金簞笥へ納候事

一、九月六日判元見分ニ十七屋孫兵衛宿証人宿共菊蔵罷越候、尤御用被仰付候付、御礼之儀御城へ罷出不及候、御用人衆御用達衆之宅へは参上候様、御用達伝右衛門殿、菊蔵へ被申聞孫兵衛え為申聞候

但、只今迄ハ呉服師共之内ニ御部屋様京都御飛脚御用承り候者有之候得共、向後右孫兵衛へ可申付旨、主計頭殿へ伺相済候事

御飛脚宿江戸室町二丁目横町　飛脚宿　十七屋孫兵衛

証人　神田紺屋町三丁目　桐生屋久兵衛

一、同七日錦竜寺本尊江戸ニおゐて開帳、西丸へ上リ候付、御部屋様より御戸帳御内証より御納、今日浅草旅宿与右衛門為持罷越相納候

一、同十一日利根姫君様御安産、御七夜御祝儀ニ付、御部屋様より被差上物有之、御使左之通

公方様え　御本丸土圭之間へ五時前　一色源太郎殿　菊蔵

大納言様え　西丸同断　五半時　榊原七郎右衛門殿　三右衛門

松平越前守殿　松平陸奥守殿　同奥方へ

五半時　大久保三太夫殿　与次右衛門

右之通相済、御用人衆へは被下物有之、尤御用人衆は御使書役御目録添罷越候、何レも熨斗目着用

一、同廿一日惣女中冬御切米請取ニ浅草御蔵へ与次右衛門、菊蔵罷越候、諸事勤方当三月十日之通ニ相済

一、同廿三日五百石以下一統拝借上納帳聞合、元方御金奉行へ聞合遣ス、上納之委細

一、同日朝鮮人参座へ菊蔵印鑑御用人衆より被差越、委細は

一、十月三日証明院様七回御忌ニ付、上野ニ御法事有之、御部屋様より御香典白銀三枚御備、御代拝大久保三太夫殿御勤、御備物菊蔵上野ニて春性院へ参上、但、三太夫殿・菊蔵共麻上下着用

一、十一月朔日竹千代様御髪置被遊候、御祝儀御部屋様より被差上物有之、公方様え御本丸土圭之間え六時過相廻ス

御肴一種　但、干鯛一箱

御樽一荷

右御目録　　御使　同刻　大久保　三　太　夫殿　　菊　　蔵

右御使三太夫殿熨斗目半袴、御目録菊蔵熨斗目半袴着用之、於土圭之間御目録三太夫殿へ相渡、三太夫殿御側衆渋谷和泉守殿え御口上被申上相済て三太夫殿え被下物有之

一、十二月朔日御部屋様御合力金米御手形弐通共例之通書役認、御用達衆へ相渡、御用人衆藤崎・歌野之内え被渡、両人より御留守居衆へ被差越、御老中裏印済候由ニて被相渡

一、同十三日御煤納有之、西丸御年男例年御留守居越前守被相勤、大納言様より如例被下物有之、内藤越前守え左之通被下

縮緬白三巻　二種一荷　　御下男　内藤越前守

右之品前日御賄方より御用達衆え申達書役へ渡、書役請取御使番へ申達、御下男組頭へ預ケ置、縮緬ハ御納戸より相廻、御用人衆被請取表使へ被渡候、当日朝六時表使より御目録并右縮緬、御使番を以被差出菊蔵請取、老女衆より之奉文此時一同ニ被出、右御樽肴共々御小人宰領ニて御下男ニ為持、但、人足ニ為持御下男差添候、菊蔵儀は熨斗目着用、御小人は服紗小袖麻上下着用、越前守殿宅ニては大門開き申候、書院ニおゐて床之間ニ右被下物越前守殿家来飾置、書院へ越前守殿被出御目録、菊蔵より被請取頂戴相済、吸物酒等被出金弐百疋給り申候、御小人は使者之間ニて老女衆之奉文用人え相渡、御小人御下男へ吸物酒等被出、人足等迄酒被出御小人御下男人足迄相応ニ金子銭等給ル、右相済越前守殿書院被出、菊蔵へ挨拶有之、玄関迄送り被出候、尤玄関之敷台へ用人初取次之者共罷出平伏大門開申候、被下物持参之節も用人初取次之者敷台出迎平伏、西丸へ罷帰り奉文之御請表使え御使番を以進達相済

一、同廿日御合力米之儀月廻ニ成候間、当年之御手形を以来春ニ至請取申度候ニ付、否之儀御用達衆より書替所へ聞合有之、其通りニ相済

一、同日御合力金御手形写御金奉行へ聞合相済、同廿二日添番伊賀例之通千五百両請取来御用人衆・御用達衆并書役如例御金簞笥へ納申候

一、昨十九日土圭之間え御用人衆呼出し、土佐守殿左之書付被相渡、御広敷御用部屋ニて御用人衆被申渡

御広敷御用人へ

米野孫兵衛
神谷清太夫
横山伝右衛門
富田三右衛門
大鐘与右衛門
山口与次右衛門
松下菊蔵

右何も明日罷出候事

一、同廿日大納言様より御内証ニて御褒美被下候、土圭之間表新部屋ニて御用達三人え白銀七枚ツヽ被下、藪主計頭殿・戸田土佐守殿御出座被成骨折勤候ニ付、御褒美被下旨主計頭殿御申渡、御用人衆被相詰同書役四人え白銀弐枚ツヽ被下、被仰渡右同断、御用人衆へ御申渡、頂戴御金影時計之間ニて書役え被渡、主計頭殿・土佐守殿御通り懸り之節、影時計之間ニ書役列居、時計之間入口迄罷出平伏、御

用人衆御礼被申上

但、御内証之被下故、何レも平服

一、同廿一日夏之通、御部屋様より金弐百疋被下

但、御用人衆・御用達衆并同役夏之通被下

一、今日大納言様御誕生日ニ付、御広敷勤之惣中え丸餅一重ツヽ被下

一、同廿二日、五百石以下一統拝借上納相納、委細拝借上納帳ニ記

一、同廿九日大納言様附女中より金五百疋ツヽ、御部屋様附女中より金百疋ツヽ給ル

但、年中御切米・御扶持・御合力金手形并御証文願等認世話致候故、例暮右之通ニ候

竹千代様附女中は御誕生之暮より、其儀無差別取紛年々打延、大納言様附女中之給り之内ニ籠り候分ニて別ニ附届無之

山里御番、西丸御広敷御用部屋勤共

一、未年中当番昼勤共皆勤、但、山里御番正月朔日より同廿六日迄御番数拾

西丸御広敷御用部屋勤左之通

二月朔日、二日、三日　見習

二月五日より十二月廿七日迄、合百七十六皆勤

二月廿九日より十二月十七日迄、合外出昼十五泊り三ツ

都合弐百四皆勤

一、元文五　申年

一、正月元日例年之通年始之御祝儀、御部屋様より被差上、公方様え御本丸土圭之間え六時過相廻ス

干鯛一箱、御目録　御使同刻　大久保　三　太　夫殿　菊　蔵

右御使相済、御本丸より三太夫殿へ被下物有之、御本丸御広敷え六時過相廻ス

御鏡餅一飾、御目録　同刻　神　谷　清　太　夫殿　同　人

右干鯛御賄方より前日御広敷へ相廻、請取方七月御蓮飯之通り御用達衆へ申達、書役取扱御下男組頭へ預ケ置、但、下御用部屋ニ差置事も有之、御鏡餅は其儘御賄方ニ預ケ置、元朝右二品御本丸へ蓮池御門通り相廻ス、御目録共ハ元朝表使より御使番を以被相渡、御本丸土圭之間ニて三太夫殿へ菊蔵相渡、干鯛箱共御本丸御賄方世話致、土圭之間え相廻ス、夫より直ニ御広敷へ菊蔵罷越、御鏡餅御賄方役人ニ為飾御広敷ニ為置候、尤宰領持人七月之通御小人御下男罷越候、清太夫殿御目録渡方、七月之通諸事相済、被下物も御用達衆・書役・宰領持人共是又七月之通被下候

大納言様竹千代様えは西丸大奥ニて御披露有之、出役無之

一、同五日刑部卿様御酒湯被為召候御祝儀、御部屋様より公方様え被差上、御本丸土圭之間え六時相廻

干鯛一箱、御目録　御使同刻　榊　原　七郎右衛門殿　熨斗目半袴与次右衛門熨斗目

右御使御用人衆へは被下物有之

刑部卿様へ被進、御本丸御広敷御門之内御屋形へ五半時相廻

干鯛一箱、御目録　御使同刻　一　色　源　太　郎殿　同断、与右衛門　同断

右御使御用人衆へハ被下物有之

大納言様、竹千代様えは西丸大奥ニて御披露有之故、出役無之

一、同七日若菜之御祝儀ニ付、御年男内藤越前守え被下、大納言様より

御鏡餅一飾　二種一荷　御目録添　出役　与右衛門

右諸事御煤納之節之格式ニて相済、尤金弐百疋、越前守殿より給ル、御小人御下男人足迄前格之通、相応ニ給ル

一、同廿五日為御年礼、御部屋様御本丸へ被為入、御供御定之通、但、書役よりは与次右衛門罷越相勤、尤熨斗目着用

一、二月朔日為御年礼、西丸へ利根姫君様被為入、西丸勤御用人衆へ金五百疋ツヽ、番之頭衆へ三百疋ツヽ、御用達衆へ弐百疋ツヽ、添番以下惣中へ三千疋被下

一、同十九日御部屋様去未冬御合力米、浅草御蔵ニて請取、神谷清太夫殿・与右衛門罷越、諸事例之通相済

一、九月十二日惣女中冬御切米請取ニ浅草御蔵へ与右衛門、菊蔵罷越候、諸事勤方未三月十日之通ニ相済、払米百俵ニ付五拾両かへ

一、同廿一日鉤上村（カキアゲムラ）神明祭礼、相撲例年今日有之近在之相撲大寄之旨及承社参委細

一、

御部屋様御合力米

一、十月十三日より同廿七日迄日数十五日破損断ニて引

右日数ニて不足ニ付、廿八日出勤廿九日昼勤相勤、此節横山伝右衛門殿吹挙ニて同役へ相頼、日数十

日頼合申筈ニ成、十一月二日より之当番より十一日迄引、十二日より出勤

但、住来候居宅、享保十巳年二月類焼之節、小屋掛ケ同前之普請之儘ニて候故、年々破損修復いたし当年迄延置候、此度作直候へ共、事軽申立破損修復之由、同役へも内談ニて御用達衆より御用人衆へ被申達候処、先格之通同役申合休候様ニ榊原七郎右衛門殿御申渡済

一、家作坪数拾七坪半之所出来、内外造作共十月十三日釿初、十二月十六日迄仕上済

入用金大概弐拾四両程、委細普請中入用帳ニ記

但、発端ニは坪数都合弐拾五坪之積之処、当年は減少追て仕足可申積りニ候、絵図水帳袋ニ入置、翌年正月十三日鎮宅之祈祷

一、十二月六日例之通御部屋様より金弐百疋被下候

一、同日公方様え御部屋様より歳暮之御祝儀、御使一色源太郎殿、与右衛門

一、同十三日御煤納御祝儀、御下男内藤越前守殿へ大納言様より例年之通被下物有之、御目録添菊蔵相勤例之通諸事相済、勿論越前守殿より金弐百疋給ル

一、同十六日御用人・御用達・書役惣出勤

公方様より今日竹千代様え御名被進、家治様と奉称候、御祝儀御使

御部屋様より

公方様え　御本丸土圭間へ六時　大久保　三　太　夫殿　与次右衛門

大納言様え　西丸土圭間　四半時　榊　原　七郎右衛門殿　与右衛門

竹千代様え　同断　同断　一　色　源　太　郎殿　同　人

一、同廿一日大納言様御誕生日ニ付、例年之通丸餅一重被下候
一、同廿六日五百石以下一統拝借上納相納、委細拝借上納帳ニ記
一、同廿七日例年之通大納言様より御内証御褒美、銀弐枚被下候、諸事去未十二月之通ニ済
一、同廿九日例年之通
大納言様附女中より五百疋ツヽ
御部屋様附女中より百疋ツヽ給ル
西丸御広敷御用部屋
一、申年中当番昼勤共皆勤
正月朔日より十二月　合百八十皆勤
二月七日より十日迄毎日外出
二月十四日より十九日迄同断
四月朔日より八日迄同断　合外出昼之分廿三皆勤
七月廿三日より廿九日迄同断　此外ニも外出三ツ皆勤
但、十月十三日より廿七日迄破損断定式之通十五日
十一月二日より十一日迄同断、仲ケ間頼合十日、合二十五日休
此休ハ勤ニ立候御定也
都合弐百六皆勤

一、元文六酉年　三月三日改元　寛保元

一、元日例年之通、年始之御祝儀

御部屋様より被差上物有之御使

公方様え、御本丸土圭之間へ　大久保　三　太　夫殿、　与右衛門

御同所御広敷へ　神　谷　清　太　夫殿、　菊　蔵

右諸事去申正月之通ニ相済、被下物も同断

大納言様、竹千代様えは去申正月之通故、出役無之

一、同七日若菜之御祝、内藤越前守殿へ例年之通、大納言様より被下物有之、出役与右衛門相勤諸事去申正月之通ニ相済、越前守殿より金弐百疋給ル

一、同十一日御用人大久保三太夫殿、西丸御先手頭被仰付候、右悦ニ三太夫殿宅へ参上、麻上下着用

但、御役替ニ付、書もの有之ニ付、与右衛門一日、菊蔵二、三日宅へ罷越、三太夫殿用事相達候

一、同十三日鎮宅祈祷修之

生土神　別当宝蔵院之代僧勤之

一、同廿一日御用人・御用達・書役惣出勤、今日竹千代様御袴着御祝儀有之、御部屋様より御祝儀左之

通御使

公方様え

大納言様え

竹千代様え

但、竹姫君様より弐百疋、寿光院殿より百疋、并七郎右衛門殿源太郎殿より百疋ツヽ、同役四人へ給ル

合壱両壱分

一、同廿二日今度大久保三太夫殿御役替御祝儀、餾一折を書役四人より進上、与右衛門持参、但、御肴御用聞いセ屋長兵衛へ申付ル、居台共四百七十文

一、二月十六日御用達米野弥兵衛殿、御天守番之頭ニ被仰付候

一、三月十二日右御祝儀ニ、酒三升書役四人より進上、但、御酒御用聞井桁ヤ与右衛門へ申付、代三百五拾文

一、同十四日天英院様御法事増上寺ニて有之、御部屋様より御代拝、榊原七郎右衛門殿御勤、御香典白銀三枚御備、出役菊蔵

増上寺へ参上、但、七郎右衛門殿、菊蔵共麻上下着用

一、同十五日惣女中、夏御借米請取、浅草御蔵へ与右衛門、菊蔵罷越候、諸事勤方未三月十日之通ニ相済

一、五月五日例年之通竹千代様御旗御祝儀ニ付、御酒御肴被下、御部屋様より御用ニ懸り候者へ、例之通強飯・御酒・御肴被下、御用部屋ニて取扱ニ懸り申候

大納言様、御部屋様より例之通粽二巻ツヽ被下

一、同廿二日竹千代様御誕生日御祝儀、例年之通御鏡餅頂戴、麻上下着用

一、六月四日御部屋様御合力米例之通、浅草御蔵ニて御蔵奉行より御用達、古坂与吉殿被請取、与右衛門罷越候、御蔵へ四郎左衛門罷出候、御払米御入米諸事例之通ニ相済、御払代百俵ニ付四拾七両弐分

かへ

一、同十五日より二丸へ御移り迄、書役三人ツヽ毎日泊りは壱人相勤可申旨、七郎右衛門殿御申聞、今日三右衛門呼上三人勤十七日迄ニ済

但、此儀は御部屋様御障り之儀有之、二丸へ御移し被遊候ニ付、諸事御用多故、如此ニ候

一、同十七日より七月六日迄日数十九日、毎日二丸御用部屋へ出勤、右は去ル十一日於御本丸、御部屋様附御用人、一色源太郎殿、加藤十太夫殿、御用達横山伝右衛門殿、池谷久次郎殿并書役両人被仰付、番之頭図司丈助殿、安藤太郎右衛門殿、高山甚右衛門殿并添番伊賀御下男組頭、御小人御下男等被仰付候、只今迄御部屋様御用向ニ懸り候は、源太郎殿、伝右衛門殿計故、書役勤馴候内西丸書役松下菊蔵当分御借り被成度旨、藪主計頭殿へ源太郎殿御願候ニ付、若年寄衆へ主計頭殿御達候処、水野壱岐守殿御申被成候は内々ニて借し遣候様、七郎右衛門殿へ御申渡候由ニ付、二丸へ当分相勤可申旨、七郎右衛門殿被仰聞相勤、右御用相済候ニ付、西丸へ御返し候段、源太郎殿御申聞、同六日迄ニて二丸相済今日二丸御錠口ニて御中居、青柳西丸より助御使番さくら両人罷出候て表使衆被申候由、此間骨折相勤候ニ付、御部屋様より白銀壱枚御内証ニて被下候旨申聞候、尤源太郎殿より西丸御用人衆へ菊蔵骨折相勤候故御用弁し申候、先御返し被成候間、暫休せ被申候様申来り、当番木村弥十郎殿御承知三日休来ル十日より出勤可致旨御申聞候

右御礼廻り、平服ニて源太郎殿、十太夫殿、伝右衛門殿、久次郎殿参上

一、同十日より西丸え出勤

一、八月五日大納言様御有卦入御祝儀、強飯・御酒・御肴被下候

一、同七日於御本丸、公方様御転任、大納言様御兼任相済、今日より大納言様御事右大将様と可奉称旨被仰出候

一、同十二日竹千代様御元服今日より大納言様と可奉称旨被仰出候

一、九月廿一日惣女中冬御切米浅草御蔵へ請取、三右衛門、与右衛門罷越候、諸事勤方未三月十日之通ニ相済、払米百俵ニ付四十六両壱分

但、此節より御部屋様附女中は此方同役之懸り相止

一、十二月十三日御煤納御祝儀御年男内藤越前守殿へ被下物有之

右大将様より縮緬白三巻二種一荷、例年之通

大納言様より一種一荷、当年より被下候

御目録添当年より両人罷越候ニ付、与次右衛門、菊蔵、越前守殿宅へ参ル、金弐百疋ツヽ給ル、諸事作法ハ未年之通ニ相済

但、当八月より大納言様東御座敷御住居ニ成候故、当暮御煤納御祝儀越前守殿被勤候故、当暮より被下物有之

一、同廿日五百石以下一統拝借上納相納、但、当暮皆済委細ハ拝借上納帳ニ記

一、同廿一日右大将様御誕生日ニ付、例年之通丸餅一重被下之

一、同廿二日右大将様より御内証御褒美銀弐枚被下候、諸事未十二月之通ニ済

一、同廿九日右大将様附女中より五百疋ツヽ例年之通

一、西丸御広敷御用部屋酉年中当番昼勤共皆勤

正月朔日より十二月廿八日迄合百六十四皆勤

正月十五日より外出昼三ツ泊り壱ツ　合二十皆勤

（三月廿九日より四月十五日迄毎日外出十六

六月十七日より七月六日迄二丸へ助十九皆勤

都合弐百三皆勤

一、寛保二戌年

一、正月七日若菜之御祝儀ニ付、御年男内藤越前守殿え右大将様より例年之通被下物有之、出役三右衛門相勤、諸事去申正月之通ニ相済、越前守殿より金弐百疋給ル、大納言様よりは若菜御祝儀は被下無之候故、出役無之

一、三月十七日惣女中夏御借米請取ニ浅草御蔵へ三右衛門、与次右衛門罷越候、諸事勤方未三月之通ニ済、払米百俵ニ付三十七両弐分

一、八月二日下谷本所筋迄大水故、御用達神谷清太夫殿、書役三右衛門、水付清太夫殿は明番、三右衛門は今日当番之処出勤無之、通路不叶故家内之安否不知、当番之代り菊蔵呼上ヶ出勤

欄外

「寛保ニ戌」

一、同六日今日三右衛門方へ漸通路有之、去ル三日より安否尋可申旨御用人衆御申聞、同役より書状を以御広敷詰使之者毎日遣候へ共、鳥越辺迄も一向往来不叶、六日ニ使之者御掃除方漸三右衛門宅へ参り附候処、床の上弐尺程水附候旨届書、右使へ相渡遣候、福村理太夫殿へ菊蔵相達、七郎右衛

門殿へ被達候、尤三右衛門家内之者別条無之段も申来ル、清太夫殿明番帰りより通路有無不相知尤両国橋は流候故、新大橋通りへ使之者遣候へ共一向往来不叶、四日夕西丸御徒目付当番所より一通御広敷御用部屋迄相届、是は御用船通り候ニ付、当番所迄一封届呉候様、清太夫殿御頼ニ付、相届当番所より又此方へ相届之一封ニ床の上三尺程水附、家内別条も届申来、御用達衆より御用人衆へ被達候

一、同七日三右衛門水附出勤無之、与次右衛門は病気ニて引、与右衛門、菊蔵此間中隔番ニ付、今日より昼勤不致、両人代り合隔番ニ可勤旨七郎右衛門殿御申聞候、右之通ニ付三右衛門当分罷出相勤追て勝手次第水休之日数残り候分休可申旨、七郎右衛門殿御申聞三右衛門方へ通達、十一日より三右衛門出勤、是より三番、尤昼勤も前々之通相勤

一、同十四日書役御扶持方一紙手形ニ付、石高之内合夕之所相違有之来候故、七郎右衛門殿より書替奉行黒部善左衛門殿聞合有之候処、有来之通手形ニて済、委細

一、九月十二日惣女中冬御切米浅草御蔵へ請取、三右衛門、与右衛門罷越候、諸事勤方前々之通相済、但、酉九月之通ニ済、払米百俵ニ付

一、十二月十三日御煤納御祝儀、内藤越前守殿例年之通御年男被勤、右大将様より例之通被下物有之、大納言様より去酉十二月之通被下物有之、出役与右衛門、菊蔵相勤、諸事前々之通相済、但、酉十二月之通ニ済、金弐百疋ツヽ越前守殿より給ル

一、同廿一日右大将様御誕生日ニ付、例年之通丸餅一重ツヽ被下候

一、同日例年之通右大将様より御内証御褒美銀弐枚被下候、諸事未十二月之通ニ済

但、今日は御誕生日ニ付、土圭之間より奥向之衆中麻上下着用ニ付、此方よりも御用人御用達書役不残麻上下着用頂戴相済、御礼廻りは例之通平服ニて相廻ル

一、西丸御広敷御用部屋戌年中当番昼勤共皆勤

但、八月二日大水ニ付同役富田三右衛門出勤難成、且山口与次右衛門煩引、依之大鐘与右衛門、松下菊蔵両人二日より隔番昼勤共七日より昼勤ハ無之、十一日より三右衛門当分出勤、自是昼勤始ル

菊蔵勤之分八月二日当番三日昼勤四日当番五日昼勤六日当番八日当番十日当番

合七ツ皆勤

正月二日より十二月晦日迄

都合百九十四皆勤

一、寛保三亥年

一、正月七日若菜御祝儀御年男内藤越前守殿へ右大将様より例年之通被下物有之、出役与次右衛門相勤、諸事戌正月之通ニ相済、越前守殿より金弐百疋給ル

一、三月十五日惣女中夏御借米浅草御蔵へ請取、与次右衛門・菊蔵罷越、諸事酉九月之通ニ相済、払米百俵ニ付

一、同廿六日甥遠藤文次郎病死、忌服届廿七日朝与右衛門宅へ同役中宛名届状并忌服日数書添遣ス、与右衛門承知、同役中へ申達、尤御用達衆へ申達、御用人衆へ被申達

欄外

「寛保三亥」

忌三日　三月廿六日より
同廿八日迄　遠藤伊兵衛倅

服七日　三月廿六日より
四月三日迄　遠藤文次郎病死

右被達候処、七郎右衛門殿、菊蔵親類書御引合御申聞候由ニて、理太夫殿より被申越候は、伊兵衛儀、母方祖父市郎兵衛養子成候へは、母方叔母之続ニ成候間、文次郎は従弟之続ニ候間、其意ニて忌服可受旨申来候、尤忌服日数は同事ニ候

一、同廿九日昨日切ニ忌ニて今日忌明ヶ候、出勤之出かけ月番七郎右衛門殿へ平服ニて御届ニ参上、直役所へ罷出当番相勤

一、五月二日例年之通、御旗りえ懸り候者へ去年之通西丸御用部屋ニて御部屋様より強飯・御酒・御肴被下之、二丸御用達横山伝右衛門殿、書役並村松定右衛門参り取扱之申候

一、五月五日例年之通右大将様より粽弐本ツヽ被下、大納言様例年之通之御祝儀、御酒・御肴被下之

一、同十七日親類書清太夫殿を以差出ス控

但、書役中親類書年数経候故、御用人中宛名も代り候、其外親類書之内増減も可有之候間、認直し差出置可申候之旨、七郎右衛門殿御申聞候ニ付、同役四人共認直し今日差出ス

一、同廿二日
大納言様御誕生日ニ付、御祝儀例年之通丸餅一重頂戴、但、今日例之通麻上下着用
一、七月六日夜五時過男子出生、翌七日朝血忌届状同役方え申遣ス、尤役所当番之者方迄申遣、御用達へ申達、御用達衆より御用人衆へ被達、但、血忌届状控当用書控ニ記
六日より十二日迄定式之通七ヶ日引
一、同十三日出勤当番相勤、出懸ヶニ七郎右衛門殿宅へ参上、昨日切ニ血忌明、今日より出勤之旨相届申候、勿論平服
但、七郎右衛門殿月番ニて候故、血忌引申達并血忌明ヶ候段も申達候、此儀先達届状出候節、同役中へ承合如此ニ候
一、同日七郎右衛門殿当番故、役所ニおゐて御用達宇右衛門殿ヲ以倅名附候段申達候、但、書付控当用書控ニ記
一、八月十一日甚三郎殿御孫久留乙之助殿儀、甚三郎殿御甥須田久太夫殿へ御養子ニ被頼候ニ付、甚三郎殿よりは主計頭殿へ御届之書付七郎右衛門殿を以御差出、此儀ニ付甚三郎殿暫御退出無之、御広敷上部屋ニて七郎右衛門殿と暫御談シ有之候、其節甚三郎殿御申被成候は、書役御役出之儀、御奉公年数之順、且新参古参不限人品ニ応し諸向へ書出可然旨御対談有之、七郎右衛門殿有増御承知被成候由、右之趣御広敷下部屋ニて三右衛門え御物語被成、諸向明キ次第甚三郎殿へ可申達候、尤書役中え可申聞候、右之儀甚三郎殿御世話御発端被成候故、書役中別て御礼申達候事無用、勿論七郎右衛門殿へも申達候事、宇右衛門殿「空白ママ」菊蔵へ御申聞被成候ハ、御勘定方ニ手筋有之候

間、御手引可被成由御申聞被成候、同十六日宇右衛門殿御申聞御勘定奉行筆頭神谷志摩守殿手筋町医師古谷文庵、志摩守殿へ心安出入致候間、引合可被下由御申被成、十月三日文庵へ謁見同日宇右衛門殿引合ニて太田才次右衛門殿へ謁見、才次右衛門殿取持ニて御勘定組頭堀江荒四郎殿へ入魂ニ付逢せ可申旨御申披成候

十一月廿八日才次右衛門殿より手紙申請、荒四郎殿用人福村市右衛門方へ右手紙被差越、荒四郎殿へ為逢候様ニ頼被申越之趣ニ候、同廿九日荒四郎殿宅へ参上、右手紙市右衛門へ相渡、早速市右衛門逢、今日は荒四郎殿不被逢

十二月二日ニ参上、荒四郎殿被逢熟意挨拶有之

八月廿四日本所横木橋稲荷五右衛門事、委細宇右衛門殿物語有之、廿六日ニ五右衛門へ初謁見談し九月朔日御礼三枚頂戴

十一月十一日古谷文庵宅へ参上、兼て相頼置候書付之儀神谷志摩守殿用人山本林右衛門へ相渡し頼被置候段被申聞

一、十月廿一日甚三郎殿御申聞、渋谷和泉守殿家老明石勝右衛門ニ御引合可被成由、甚三郎殿手紙菊蔵ニ為認、此手紙持参ニて勝右衛門へ逢置可申旨御申被成候、同廿四日勝右衛門小屋へ参り右甚三郎殿手紙差出候処、即刻勝右衛門へ謁見

右八月十一日より以来之儀、別紙委細書付有之

一、十一月九日甚三郎殿御申聞被成候、御惣領頼母殿御書院番在番残り役御勤ニ付、諸事書物多兼々写入候付、認物等御手支之由御申聞候付、不苦候ハヽ認差上可申旨申上候処、御頼可被成旨ニて、

翌十日明ヶ番より甚三郎殿御宅へ参上候へハ書物壱冊御渡し帰宅いたし、夜中認翌十一日朝持参御渡し申候、直ニ又御頼ニ付残役勤方一件帳認申候、朝五時より夜九ツ時過迄相仕廻夜更候故、一宿翌十二日早朝ニ帰宅、夫より当番出勤いたし候

一、西丸御広敷御用部屋、亥年中当番昼勤共皆勤

正月朔日より十二月晦日迄、合百九十六皆勤

（三月廿六日より廿八日迄忌中三日当番壱ツ引　但、廿八日当番日也

七月六日より十二日迄産穢七日当番昼勤共弐ツ引　但、九日十日当番昼勤也

右両品ハ勤ニ立候御定也

都合百九十九皆勤

一、寛保四甲子年

一、正月七日若菜之御祝儀御年男内藤越前守殿へ例年之通、右大将様より被下物有之、出役三右衛門相勤、諸事戌正月之通ニ相済、金弐百疋越前守殿より給ル

一、同廿七日西丸表火之番明、跡へ書役より書出之願書并例書添、主計頭殿へ甚三郎殿、三郎次郎殿被差出候、此砌右両人之衆主計頭殿へ被申達候は、只今迄火之番計書上申候、向後は右西丸表火之番之格合之場所ニ候ハヽ、外之場所えも書上

欄外

「寛保四子」

申度旨被申達候処、主計頭殿被仰候は成程西丸表火之番ニ不限儀ニ候、外之場所も格合少々之高下は

見合書上候様ニ被仰候、甚三郎殿被申上候は、惣体書役共西丸表火之番之外へも御役替仕候例も可有之候間、其格を以書上候様仕度之段申上、委細ニ御承知被成候、早速御聞届被成忝段甚三郎殿三郎次郎殿被申達候、右之通ニ相済候間、同役中相応之場所明キ承出候ハヽ早速申聞候様ニ甚三郎殿、三右衛門、菊蔵へ御申聞被成候、且御用達当番清太夫殿へも右之趣御咄被聞出候ハヽ被申達候様ニと御申被成候

一、二月七日表使平尾殿御用達清太夫殿へ被申候は、元呉服之間相勤候お志満事御合力金御扶持方手形共認候儀、三月分迄ハ溜り之御扶持方手形女中之方ニて被認候へ共、御合力金并ニ四月分御扶持方手形より向後惣女中手形同様ニ致世話候様ニ書役中へ頼被下候様ニと被申候、尤前々御暇被下此格之衆中ハ直判故自分々々ニて認も相済来候、お志満事ハ御留守居衆裏判取候事故、右之通世話被頼候段平尾被申候、此趣清太夫殿与右衛門へ通達有之候、同十八日お志満殿大奥へ被上候故、御中居阿やめを以御用達宇右衛門殿へ被申越候は、弥向後頼候段被申候之旨、宇右衛門殿、三右衛門、菊蔵へ通達有之候、且手形紙之儀も阿やめ聞合有之趣宇右衛門殿被申候間、惣女中手形紙之儀女中より請取置候間、お志満殿より表使衆へ談し有之様可被致旨宇右衛門殿へ申達、阿やめへ通達有之候

但、去亥年お志満殿願ニ付御暇被下年久敷相勤候故、一生之内只今迄取来候通、御合力金弐拾両ツヽ御扶持方被下之、其外は御暇被下候儀故不被下候由

一、同廿九日延享と改元被仰出候

一、三月七日主計頭殿被仰渡御賄方表御台所方より御広敷へ廻り物吟味役、向後書役加役ニ相勤可申

旨、御書付を以御用人衆へ御申渡御書付御渡候ニ付、今日より相勤可申旨御用人三人之衆御申渡候、
委細
一、同十四日惣女中夏御借米浅草御蔵へ請取ニ、三右衛門、菊蔵罷越候、諸事酉九月之通ニ済、払米
百俵ニ付卅七両弐分替
一、四月廿三日御部屋様西丸大奥へ平日之御入、今度より御用弁為手廻、廿三日之当番書役前夜より
罷出相勤可申候、向後左様心得候様七郎右衛門殿御申聞候付、菊蔵廿三日当番故廿二日泊りより罷
出候
一、五月五日例年之通右大将様より粽二巻ツヽ被下、但、当番明ヶ番え被下候
一、同十六日諸所より上り候干鯛箱共書役へ一箱ツヽ被下、表使町野殿被申候由、御使番さくら申聞候
一、同廿二日大納言様御誕生御祝儀例年之通丸餅被下之
一、同廿三日西丸大奥へ小五郎様初て御入ニ付、御広敷向御金被遣候、添番以下へ白銀拾五枚被下候、
配分書役壱人前三百五拾文ツヽ、廿三日当番菊蔵廿二日泊りより罷出候
一、六月廿二日御部屋様平日御入
一、今日甲子大黒尊像板行一枚ツヽ左宝用より御使番松風を以
給ル、但、此大黒尊像之儀は公方様甲子之御出生ニて当年御本卦返りニ付大黒之尊像御自画像二被
遊板行ニ出来、於御本丸ニて妙教承之奥女中御広敷向末々迄も給ル、西丸ニてハ左宝用承之女中御
広敷向末々迄給ル、尤自画之趣ハ御披露無之候へ共自然と申伝へ奉称美之
一、八月十一日七郎右衛門殿へ清太夫殿を以公儀向年之儀生年増候て書出候処、向後生年認申度段申

達候処御承知、分限書ニ認候事ニ候へ共、書役中姓名無之人数〻ニて大目付へ差出候事ニ候、其外ハ御用人中ニて留り候間、向後認直シ告ヶ間敷候間、御同役中御相談可被成由御申被成候、則左之書付清太夫殿を以差出ス

拙者年之儀先年認違申候ニ付、改候て親類書ニ仕度奉存候間此段奉願上候、以上

八月十一日　　松下　菊蔵

子ニ四十歳

同十二日朝甚三郎殿へ宇右衛門殿を以、昨日右之通七郎右衛門殿え差出候段御承知ニ候、同十三日三郎次郎殿、清太夫殿へ菊蔵願之趣御承知之由御申御同役御相談有之、相済可申事之由御申被成候

右年之儀正徳四午年三月父伊太夫末期願之節、書上ヶニ惣領次郎吉菊蔵事、当午十八歳と認差上候、此儀は宮沢平四郎申候は、次郎吉生年十歳ニ候間、父跡式被下置請続申候共、十七歳以下は末期養子願難成候間、十八歳と書上ヶ申候ハヽ其日時より安堵之由申候ニ付、一類中且母方祖父遠藤市郎兵衛承知、惣体年之儀は、大名以下末々迄増減作略有之事ニ候へ共、表立てハ難申事ニ候へ共、上并御老中以下御役人共ニ得心有之事ニ候間、可然旨相談一決いたし十八歳と書上相済候、夫より段々成長壮年ニ至り生得生年よりハ見分着候ニ付、年之増八ツニてハ殊之外不相応ニ相見へ候之由、祖申聞候間、生年ニ改書上申度存候へ共、元山里伊賀相勤候節ハ御留守居直支配二て分限帳姓名書上ヶ御本丸西丸共ニ一ヶ年ニ両度ツヽ之改有之、御留守居衆へも部屋ニ被置候分限帳差出置候ニ付此願延引候処、此節御用人支配手懸ヶ候間、時節を以今度御用達宇右衛門殿

を以委細申達、甚三郎殿、三郎次郎殿御承知、七郎右衛門殿ニも御承知ニハ候得とも書付を以申上候様御申聞候間、此趣甚三郎殿へ宇右衛門殿御物語候へハ先認之願書之下書御認、宇右衛門殿を以御渡し被下、下書之通認御用達筆頭清太夫殿を以十一日ニ差出願之通相済

但、御用人衆へ出置候由緒書・親類書歳所計認直シ可申旨ニて翌丑五月認改置之候

一、同九月廿日此度御誕生御用懸り、三右衛門、菊蔵相勤候様ニ七郎右衛門殿、三郎次郎殿御立合ニて御猿渡、尤藪主計頭殿へ七郎右衛門殿お伺い押さず有之、西丸若年寄水の生き守殿へ市の書きつけ出候

八月十三日御妊婦之方有之由、表使富尾被申出九月十九日西丸御側衆御部屋前廊下ニて、壱岐守殿御出座主計頭殿御侍座ニて御誕生御用元懸り七郎右衛門可相勤旨被仰付段、壱岐守殿、七郎右衛門殿へ被仰渡候、依之書役之内両人極置、御用相勤させ申度之旨七郎右衛門殿御伺被成候

右伺之書付主計頭殿へ懸御目、壱岐守殿へ御差出候趣左之通

西丸御広敷御用部屋

書役

富田三右衛門

松下菊蔵

此度私儀御誕生御用被仰付候付、書役之内右両人極置、諸事書物等申付度奉伺候、以上

九月廿日　榊原七郎右衛門

過刻壱岐守殿御申聞伺之通可申付旨、七郎右衛門殿へ被仰渡候付、主計頭殿へも相済候段七郎右衛

門殿被申達候、勿論奉附被致壱岐守殿返上、右三右衛門、菊蔵平常之御用向も与右衛門、与次右衛門同様ニ相勤、当番常之通相勤、御誕生御用兼相勤、尤書物計ニ不限万事引請相勤、自是先八月御妊婦新規御用日々御料理之品生二て前格之通御賄方より相廻ニ付、御用達三人共并書役四人共生廻り之品吟味いたし女中へ御用達相渡、右御賄方吟味方之下役四人御広敷へ持参、御広敷二て持運御用部屋附之御下男小仕之者六人相勤、此儀も主計頭殿へ七郎右衛門殿御伺相済、何レも相勤、但、此伺書ハ御用人衆三人之姓名ニて被申上

一、九月廿四日惣女中冬御切米、浅草御蔵へ請取ニ三右衛門、与右衛門罷越、諸事酉九月之通ニ済、

払米百俵ニ付三十三両弐分

一、十二月十三日御煤納御祝儀、内藤越前守殿例年之通御年男被勤、右大将様、大納言様より被下物有之、出役与右衛門、菊蔵相勤、諸事酉十二月之通済

金弐百疋ツヽ越前守殿より給ル

一、同廿一日右大将様御誕生日ニ付、例年之通丸餅一重ツヽ被下之

一、同廿二日例年之通右大将様より御内証御褒美銀弐枚被下候、諸事未十二月之通ニ済

一、西丸御広敷御用部屋、子年中当番昼勤共皆勤

正月三日より十二月廿七日迄、合百七十八皆勤

三月七日より十一月二日迄、外出昼五ツ泊り八ツ皆勤

十二月中外出昼合七日皆勤外ニ泊り四ツ皆勤

都合弐百弐皆勤